

第1章 平成29年度事業報告

目次

概要	-----	1
1 活動計画	-----	1
2 会議・会合	-----	3
3 会員	-----	8
4 表彰	-----	8
5 粉体工業展	-----	9
6 常置委員会	-----	13
7 分科会	-----	30
8 粉体工業技術センター	-----	41
9 技術情報交流懇話会	-----	43
10 共催・協賛及び後援行事	-----	44
11 刊行物	-----	46

第1章 平成 29 年度事業報告

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

(平成 30 年 5 月 10 日理事会承認用)

概要

わが国の平成 29 年度 1～3 月期の実質 GDP 速報値はプラス 0.5%と5四半期連続でプラス成長を維持すると予想されており、国内経済は緩やかな回復を続けています。また、輸出、輸入ともおだやかな伸びを維持しており、外需環境も依然として改善を続けています。特に、これまで輸出を牽引してきた中国に加えて、NIEs (新興工業経済地域)、ASEAN 地域の伸びが高まっており、輸出、設備投資ともに堅調に推移してきました。

当協会でも、2017 年 10 月 11 日(水)～10 月 13 日(金)、インテックス大阪にて粉体工業展大阪2017を開催し、9,967 名(前回 2015 年比 116%)という多数の来場を得て、産業界が粉体工業へ高い関心を持っていることを実感できました。政治の混迷はあるものの、2018 年 2 月に行われた平昌冬季オリンピック競技大会において、日本の選手団はメダル 13 個を獲得し、冬季では最多となるなど、明るいニュースもありました。

このような状況下、当協会では平成 28 年度からスタートした、「平成 28～30 年度中期運営計画」に沿って活動を継続し、中期 3 か年計画の 2 年目として、期初に計画した予算に基づき、事業計画を滞りなく遂行することができました。

その概要について以下に報告いたします。

1.活動計画

1-1 調査・研究事業(分科会、分科会運営、技術(技術用語検討・ナノ粒子利用)

調査・研究事業の中心となる分科会活動は、14 の単位操作・常置型分科会と、5 の目的指向・プロジェクト型分科会の合計 19 の分科会が、延べ 49 回の分科会本会合を開催しました。そのうち、単独開催が 37 回、他の分科会との合同開催が 12 回と、分野間の交流を通じて、各技術分野の情報収集、成果の発信と将来技術への探求を行なってきた。

平成 29 年度の開催回数が、前年度の 52 回から 3 回減少したが、延べ参加者数は、1936 名(内、非会員 35%)と前年度の 1,937 名(内、非会員 38%)と同じであった。単位操作・常置型分科会、目的指向型分科会の活動は、見学会と技術講演・討論を組み合わせた会合が中心となるのに対し、電池製造技術、粉体シミュレーション分科会等プロジェクト型分科会は講演・討論を主体とした会合を実施した。これらプロジェクト型分科会は、1 回の開催で 100 人規模の参加者があり、最先端の技術の情報発信の役割をはたしている。さらに、教育部門の行事として、単位操作・常置型分科会を中心に、9 回の粉体エンジニア早期養成講座の開催に協力し、また 4 分科会合同で専門講座を開催し、日ごろ蓄積した技術情報を協会の内外に公開した。

委員会関係では、技術用語検討委員会が新書版の「粉体用語ポケットブック」、総用語数約 1,400 語という内容で刊行した。一方、ナノ粒子利用技術委員会では、昨年と同様に 2 回の会合(委員会)を実施した。8 月の委員会では「ナノ粒子のコンポジット化プロセスの現状と課題」というテーマで 3 件の講演、2 月の委員会では「ナノ粒子の合成とリスク管理」というテーマで 3 件の講演が行われ、ナノ粒子技術に関連する活発な議論があった。

2017 年 10 月 11 日から 13 日に行われた、粉体工業展大阪2017の主催者コーナーに、分科会活動の紹介、技術課題の将来への歩みを示すロードマップ、活動報告、活動計画のパネルを展示した。また、併催イベント「粉体機器ガイダンス」を開催し、混合・成形、計装測定、粒子加工の 3 分科会は、会員各社の製品説明会を行い、最新技術の成果発表を行った。

1-2 広報・普及事業(総務、「粉体技術」誌編集、総覧発行、産学官連携)

(1) 月刊誌「粉体技術」

広報・普及事業の中心となるのは、月刊誌「粉体技術」の発行である。1969 年に「粉体と工業」として創刊、2009 年からは「粉体技術」として、国立国会図書館書誌に資料保存(2000 年 12 月まではデジタルデータ)されている。協会と会員および会員相互のコミュニケーションの促進に寄与することを、主な目的として編集されてきたが、(株)粉体と工業社が協会の会員外に販売してきた業務を、2018 年 1 月に協会が引継ぎ、直接販売することになった。それに伴い、「粉体技術」の読者の内、約 21%が協会関係以外の読者となっており、粉体技術情報、協会活動情報の重要な情報誌になっている。

「粉体技術」誌以外に、ホームページやメルマガジンを発信しており、年平均のホームページへのアクセス数は 12,930 件/月、メルマガの発信数は 58,368 件/月であった。

(2) 産学技術交流推進

粉体工業展大阪2017の併設イベントとして、2017 年 10 月 12 日に APPIE 産学官連携フェア 2017 を開催した。大学・高専や研究機関からの幅広い分野の粉体研究者から 40 件のシーズを募り、産のニーズとマッチン

グさせることを目的に開催し、ニーズ参加者は 105 名、その内 80 名近くが非会員からの参加者であった。ニーズ参加者の投票により、ベストシーズ 3 件を選び、平成 30 年度にベストシーズ講演会を実施する予定である。

同時に、下記のセミナーを粉体工業展大阪2017の併設イベントとして実施し、多数の参加を得て、技術情報の提供と共に協会活動の広報・普及に努めた。

粉じん爆発情報セミナー	講演 4 件	参加者	150 名
粉体シミュレーション基調講演	講演 7 件	参加者	94 名
ナノ粒子利用技術に関するセミナー	講演 4 件	参加者	202 名
こなもん ことはじめ 粉体工学ガイダンス	講演 3 件	参加者(延べ)	218 名

(3) 技術相談

粉体工業展大阪2017では「技術相談コーナー」を開設し、3 日間で 35 件(前回、2015 年は 35 件)の相談を受け付けた。また、産学技術交流推進部門では、ホームページ上でも技術相談を受け付けていて、こちらは 27 件(去年は 17 件)であった。

1-3 人材育成・教育事業(教育部門)

粉体工業分野における粉体技術の継承、専門技術者の育成及び粉体工業に関係する人材のスキルアップを目的として、当年度も以下の講座、セミナーを開催した。粉体技術の高度化に伴い、粉体ユーザーサイドには種々の課題があり、教育部門が所掌するこれら講座についても、協会会員以外の参加者も増加しており、粉体技術に対する関心は高まっている。

粉体入門セミナー(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)	3 回	(合計 170 名参加)
粉体エンジニア早期養成講座(9 講座)	9 講座	(合計 96 名参加)
粉体技術専門講座(4 分科会合同*)	1 講座	(合計 71 名参加)
*1 光科学イノベーションセンターとの共催		
粉じん爆発・火災安全研修(初級基礎編)	1 回	(70 名参加)

上記のように、開催回数の合計は 14 回であり、延べ参加者数は 407 名となった。平成 28 年度と比較すると、開催回数は 14 回と同じであるが、合計参加者は 504 名から 19%減少した。平成 28 年度は、参加者が多い粉体技術専門講座を 2 講座開催、粉じん爆発・火災安全研修 2 回が開催されたことによる。

1-4 規格・標準化事業(標準粉体、規格、粉じん爆発)

・標準粉体委員会

標準粉体委員会は 2 回会議を開催し、JIS Z 8901 に記載されている試験用粉体1の粒子径分布測定法の改定案の検討(継続)、SAP 試験用粉体の JIS 規格化を進めるための、粒子径分布測定法の検討(継続)を行った。

さらに、JIS Z 8900-1 に記載されている MBP 粒子(バリウムチタネートガラス粒子)を、国際的に認められる CRM(認証標準物質)として登録を完了した。

・規格委員会

規格委員会は、①国際規格 ISO 22412:2017 に対応する、JIS Z 8828(粒子径解析-動的光散乱法)の規格原案作成を完了 ②国際規格 ISO 16891:2016 に対応する、JIS Z 8911(集じん用ろ布の劣化特性の試験方法)の規格原案の作成を完了 ③JIS 原案(微小粒子の破壊及び変形強度の測定方法)については、来年度も継続 ④国際規格 ISO 13310-1:2016 に対応する、JIS Z 8801-1:2006(試験用金属製網ふるい)規格原案作成 についても来年度も継続する。

・粒子特性評価委員会

粒子特性評価委員会は、国際規格 ISO/TC24/SC4 Particle characterization(WG1~17)の第 52 回、第 53 回国際会議に参加、同時に新作業項目(NP)2 件、委員会原案(CD)1 件、国際規格原案(DIS)1 件に対する投票を行った。

・集じん技術委員会

集じん技術委員会は、国際規格 ISO/TC142/WG5 および WG7 に参加。WG7 において、金岡委員長がコンベンナーに再任され、日本提案の ISO 化を進める。同時に、WG5 においても、日本提案の ISO16313 part2 の規格化を進めることになった。

1-5 海外交流事業(海外交流)

APPIE Annual Report を 2017 年 4 月に発行、平成 28 年度の協会の行事や活動内容、情報を記載した英文レポートを作成し、約 400 の海外の交流先(団体・個人)にメール配信した。

海外行事関連では、下記の海外展示会で交流活動を行った。

APT 台湾出展(7.30~8.3)に、粉体工学会と連携し、協会のブースを設置、山田会長が出席してスピー

チを行った。
ドイツ POWTECH 2017(9.24～9.30)に協会の交換ブースを設置し、協会の活動と粉体工業展の広報を行った。
IPB China 2017(中国・上海での粉体工業展、主催 NM China、10.16～10.18)で、協会ブースを設営し、協会会員と国際粉体工業展東京 2018 の PR、技術相談を行った。

1-6 展示会事業(粉体工業展、東京粉工展、大阪粉工展)

粉体工業展大阪2017を開催し、下記の通り成功裡に終えることができた。

開催期間平成 29 年 10 月 11 日(水)～13 日(金)

開催場所インテックス大阪(南港)4・5 号館

開催規模:203 社・団体/621 小間(前回:196 社/616 小間)

来場者:9,976 名 16.4%増 (前回:8,568 名)

食品関連の「FABEX 関西」および「フードマシナリー関西」との同時開催として開催、相互入場者は 738 名(7.4%)であった。

1-7 標準粉体製造頒布事業(製造事業部門)

JIS 試験用粉体 1 の 12 種(カーボンブラック)が、GHS 区分の変更(可能な有害性はない)に従い、和文および英文の SDS(製品安全データシート)を改定した。また、バリウムチタネートガラス粒子 MBP1-10 および MBP10-100 が、認証標準物質(CRM)に登録された、それに伴い来年度より海外向けにも販売を開始する。

売上については、91,010 千円と平成 28 年度実績の 95,843 千円から約 5%減少し、平成 27 年度実績 91,750 千円とほぼ同じ売り上げにとどまった。海外売上比率は、今年度 12.8%、平成 28 年度 13.2%であり、前年度より若干減少した。

1-8 会員共益事業(技術情報交流懇話会、推薦審査、人材育成)

・技術情報交流懇話会

火(4 回)、水(3 回)、木(4 回)、金(3 回)曜会、合計 14 回 964 名(前年 904 名)の参加があった。

・推薦審査委員会

例年通り、分科会功労賞、個人会員・会友の入会審査、協会賞、粉体工業展賞、粉体工業功績者表彰の推薦を会長に答申、理事会で承認された。

・人材育成委員会

若手のつどいは、東京および大阪で各 2 回開催された。

粉体工業展大阪2017の併催イベントとして、学生ツアー・交流会を実施(2017 年 10 月 11 日開催)した。

参加者は大学より 20 名、企業より 48 名、先生及び委員&関係者 28 名 合計 96 名が参加した。

2. 会議・会合

2.1 第 36 回定時総会

日 時:平成 29 年 5 月 23 日(火) 開始午後 1 時

場 所:東京ガーデンパレス 2 階 高千穂の間

(東京都文京区湯島 1-7-5)

出席者:出席正会員総数 229 名 (出席:51 名、委任状提出者:178 名)

(正会員の総数:371 名)

定刻午後 1 時に、当協会定款第 15 条に従い、山田幸良代表理事会長が議長となり、開会を宣言し、議事に入った。

議長より、平成 29 年 5 月 23 日現在、当協会の議決権を有する正会員総数は 371 名(議決権総個数 371 個; 法人 295 個、個人 76 個)に対し、当日出席正会員 51 名(当日議決権 個数 51 個)、議決権行使書面提出者 178 名(書面議決権行使個数 178 個)、合計 229 名(議決権総個数 229 個)となり、出席者数は当協会定款 17 条 1 項に定める定足数、すなわち過半数の出席を得ていることにより、本総会が有効に成立する旨の報告があった。

引続き、議案書に基づき、報告事項 2 件の報告と決議事項 1 件の議案審議に入った。

報告事項 1:平成 28 年度事業報告及び附属明細書の件並びに平成 29 年度事業計画及び予算の件
題記の件につき、豊見昭専務理事より、別冊第 36 回定時総会資料に基づき夫々説明があった。

平成 28 年度事業報告については、同資料P.1～の“第 1 章 平成 28 年度事業報告”に基づき、5 つの公益目的の事業(調査・研究事業、広報・普及事業、人材育成・教育事業、規格・標準化事業及び海外交流事業)と 3 つのその他事業(展示会事業、標準粉体製造頒布事業及び会員共益事業)について詳しい報告があった。

同資料P.62～の“第 3 章 平成 29 年度事業計画”に基づき、活動計画として、8 つの事業(調査・研究事業、広報・普及事業、人材育成・教育事業、規格・標準化事業、海外交流事業、標準粉体製造頒布事業及び会員共益事業)を挙げ、これらの確実なる推進と積極的展開を通じて成果を具現化するため、「分科会活動の方向性の明確化」、「委員会の活動の活性化と費用の有効活用」、「展示会事業の 2020 年問題への取り組み」、「分科会運営委員会の活動強化ナノ粒子利用技術委員会活動の増強」を重点目標とする旨の報告があった。

同資料P.80～の“第 4 章 平成 29 年度予算”に基づき、平成 29 年度予算では、経常収益は前年度比で 13 6, 678 千円の減収、経常費用は同じく 76, 465 千円の減少見込みであること及び当期一般正味財産増減額として 44, 353 千円の減少を見込んでいることが報告された。上記予算上の減少は、当期が大阪での粉体工業展を開催する年に当たっており、東京開催年(前年)より予算規模が縮減する年であるためとの報告もなされた。

報告事項 2:平成 28 年度計算書類等に関する監査結果報告の件

新井英植監事より監査報告があり、平成 28 年度における業務及び財産、並びに公益目的支出計画の実施状況について監査を行なった結果、法令及び定款に反する重大な事実はない旨の報告があった。

議長より、報告事項 1 及び 2 について質疑を求めたところ、出席者よりの意見、質問はなく報告を終わった。

決議事項

第 1 号議案:平成 28 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書並びに附属明細書の承認の件

題記につき、豊見昭専務理事より、平成 28 年度貸借対照、正味財産増減計算書総括表ならびに附属明細書の承認の件について、別冊第 36 回定時総会資料P.52～の“第 2 章 28 年度決算報告”に基づき説明があった。

貸借対照表(P. 54)の通り、流動資産合計は前年度比で 46, 993 千円増加、固定資産合計は前年度比で 12, 298 千円増加、資産合計では前年度比で 59, 292 千円の増加となった。一方、負債合計は前年度比で 19, 045 千円の増加であり、その結果正味財産合計は前年度比で 40, 246 千円の増加となり、資産合計と負債及び正味財産合計は共に 493, 004 千円(前年度比で 59, 292 千円の増加)となった旨説明があった。

正味財産増減計算書総括表(P. 52)において、経常収益計の決算値は予算比で 3, 438 千円の増加、経常費用計の決算値は予算比で 15, 093 千円の減少、これらの結果としての当期一般正味財産増減額の決算値は 40, 396 千円、予算比で 25, 436 千円の増加になることが説明された。

公益目的支出計画実施報告について以下の説明があった。

- (1)当協会が平成 23 年 4 月 1 日に一般社団法人への移行した際、特例民法法人として保有していた財産 322, 797, 359 円を 6 年の間に公益目的のために適正に支出したことを内閣府へ報告する義務があり、平成 28 年度がその支出実行の最終年度として定められている。
- (2)平成 27 年度末の未消化額(支出残高)は 219, 039 円であった。
- (3)平成 28 年度中に支出した公益目的支出は 68, 714, 349 円であり、公益目的支出計画は当初の目論見どおり平成 29 年 3 月 31 日をもって完了した。

これらの説明に対し、議長より承認を求めたところ、出席者全員異議なく、第1号議案は原案通り承認可決された。

以上で、第 36 回定時総会の議事はすべて終了し、午後 2 時、議長は閉会を宣言した。

引き続き、午後 2 時 10 分から協会賞および細川明彦・佐知子基金による粉体工業展賞の授賞式、ならびに粉体工業功績者表彰式が行われ(8 頁、**4. 表彰**を参照)、午後 3 時 10 分からは特別講演が行われた。

演題:「竹中の防虫エンジニアリング -昆虫異物対策における当社の取り組み-」

講師:株式会社竹中工務店

執行役員 技術研究所長 博士(工学) 東野雅彦氏

技術研究所 エコエンジニアリング部 緑化生態環境グループ長 博士(地球環境科学) 宮田弘樹氏

特別講演の終了後、午後 4 時 30 分～午後 6 時 00 分にかけて、2 階/高千穂の間において懇親会を行った。

2.2 理事会

第1回理事会

日 時: 平成29年5月11日(木)午後3時～午後5時45分

場 所: ANAクラウンプラザホテル大阪(3階 飛鳥の間)

(大阪市北区堂島浜1丁目3番1号)

出席者: 山田幸良会長、島田啓司、棚橋純一、牧野尚夫各副会長、豊見昭専務理事を含め
理事31名、監事3名、顧問2名、合計36名

事務局: 事務局長代理1名、経理1名

議 事:

第1号議案: 入、退会会員

第2号議案: 粉体シミュレーション技術利用分科会の新設

第3号議案: 分科会および委員会の人事変更

第4号議案: 協会規定「委員会業務所掌規程」の一部改定

第5号議案: 協会内規「特別顧問・名誉個人会員及び会友に関する内規」の一部改定

第6号議案: 平成28年度事業報告、決算報告及び監査報告

第7号議案: 平成29年度事業計画と中期運営計画の確認

第8号議案: 粉体工業展大阪2017における同時開催行事

第9号議案: ニュルンベルクメッセ中国との相互協力契約締結の承認願い及び IPB (International Powder & Bulk Solids Processing Conference & Exhibition)2017 に Japanese Pavilion を設ける件

報告事項1: 共催、協賛及び後援行事

報告事項2: 中小企業等経営強化法に基づく固定資産税軽減措置制度の証明書発行の運用状況と対象拡大

第2回理事会

日 時: 平成29年8月4日(金)午後3時～午後4時30分

場 所: 東京ガーデンパレス (3階: 平安の間)

(東京都文京区湯島1丁目7番5号)

出席者: 山田幸良会長、島田啓司、棚橋純一、牧野尚夫各副会長、豊見昭専務理事を含め
理事26名、監事3名、顧問2名、合計31名

事務局: 事務局長代理1名

議 事:

第1号議案: 入、退会会員

第2号議案: 共催行事

第3号議案: 分科会の人事変更

第4号議案: 事務局職員の給与改定

第5号議案: 事務局職員の異動

第6号議案: POWTECH2017におけるバーター契約、交換ブース出展計画およびツアー計画

報告事項1: 共催、協賛および後援行事

報告事項2: 特別協賛会費の申込み状況

報告事項3: 平成30年度協会主要行事日程(案)

報告事項4: 粉体工業展大阪2017年の予算

報告事項5: 展示会展示ブース交換に関する覚書

第3回理事会

日 時: 平成29年11月14日(火)午後1時～午後3時

場 所: ホテルグランヴィア京都 (5階: 古今の間)

(京都市下京区烏丸通塩小路下ル JR 京都駅中央口)

出席者: 山田幸良会長、島田啓司、棚橋純一、牧野尚夫各副会長、豊見昭専務理事を含め
理事27名、監事3名、顧問2名、合計32名

事務局: 事務局長代理2名

議 事:

第1号議案: 入、退会会員

第2号議案: 平成29年度分科会功労賞、委員会・部門功労賞の選考

第3号議案: 協会規程「委員会・部門功労賞表彰規程」の一部改定

第4号議案: 国際粉体工業展2018に係わる粉体工学会との覚書締結

第5号議案: ㈱粉体と工業社との「粉体技術」販売に係わる契約改定

- 第 6 号議案:臨時委員会の設置
- 第 7 号議案:協会規格「SAP09-94 基準粉体」の廃止
- 第 8 号議案:海外分科会の開催
- 第 9 号議案:事務局職員の異動
- 第 10 号議案:10 号議案:平成 30 年度協会主要行事日程
- 報告事項 1:共催、協賛および後援行事
- 報告事項 2:ACHEMA2018 視察、IPNF2018 参画及び現地企業等の視察ツアー
- 報告事項 3:国際粉体工業展東京2018の計画概要
- 報告事項 4:平成 30 年度新個人会員の推薦募集及び入会審査のスケジュール
- 報告事項 5:平成 29 年度分科会連絡会議及び委員会・部門連絡会議の開催
- 報告事項 6:ワールドインシュアランスブローカーズPL保険およびE&O保険の募集
- 報告事項 7:代表理事および業務執行理事の職務の執行状況の定期報告

第 4 回理事会

日 時:平成 30 年 3 月 14 日(水) 午後 1 時 00 分～午後 16 時 30 分

場 所:ANAクラウンプラザホテル大阪(3階:飛鳥の間)

(大阪市北区堂島浜1-3-1)

出席者:山田幸良会長、棚橋純一、牧野尚夫各副会長、豊見昭専務理事を含め
理事 25 名、監事 3 名、顧問 2 名、合計 30 名

事務局:事務局長 1 名、事務局長代理 1 名

議 事:

- 第 1 号議案:入、退会会員
- 第 2 号議案:粒子積層技術分科会の新設
- 第 3 号議案:分科会、委員会および部門の人事変更
- 第 4 号議案:平成 30 年度の受託事業
- 第 5 号議案:平成 30 年度の JIS 原案作成委員会設置
- 第 6 号議案:協会賞受賞者、粉体工業功績者および細川明彦・佐知子基金による粉体工業展賞受賞者の選考
- 第 7 号議案:平成 30 年度予算
- 第 8 号議案:iPBS2018(International Powder & Bulk Solids Conference & Exhibition 2018)における展示会提携契約および交換ブース出展
- 第 9 号議案:海外分科会活動
- 第 10 号議案:協会規則「経理規則」の一部改定
- 第 11 号議案:協会規定「委員会規約」、「分科会の運営に関する覚書」の一部改定
- 第 12 号議案:協会規定「特別顧問、名誉個人会員および会友に関する内規」の一部改訂
- 第 13 号議案:第 37 回定時総会
- 報告事項 1:平成 30・31 年度役員改選(案)
- 報告事項 2:共催、協賛および後援行事
- 報告事項 3:国際粉体工業展東京2020の開催
- 報告事項 4:粉体工業展大阪2017の決算報告
- 報告事項 5:中小企業等経営強化法に基づく固定資産税軽減措置制度の証明書発行の運用状況
- 報告事項 6:分科会名誉コーディネータの新任
- 報告事項 7:クレジットカード決済専用サイトの開設
- 報告事項 8:平成 30 年度協会主要行事
- 報告事項 9:代表理事および業務執行理事の職務の執行状況の定期報告

2.3 秋期定例会合

日 時:平成 29 年 11 月 14 日(火) 午後 3 時～午後 6 時 50 分

場 所:ホテルグランヴィア京都(5 階:古今の間)

(京都市下京区烏丸通塩小路下ル JR 京都駅中央口)

出席者:山田幸良会長、島田啓司、棚橋純一、牧野尚夫各副会長、豊見昭専務理事を含め
合計 83 名

次 第:

- | | | |
|-------------------------------------|------|-------|
| 1. 協会挨拶 | 会長 | 山田幸良 |
| 2. ご来賓式辞 経済産業省製造産業局産業機械課ロボット政策室課長補佐 | | 栗原優子氏 |
| 3. 平成 29 年度協会事業の上半期実績報告 | 専務理事 | 豊見昭 |

4. 特別講演
講演:「AM(3D プリンター)技術とその最新動向」
講師:株式会社アспект 代表取締役 早野誠治氏
5. 懇親会

2.4 分科会連絡会議

日 時:平成 30 年 1 月 19 日(金) 午後 1 時～午後 6 時

場 所:名鉄グランドホテル(11 階・柏の間) (名古屋市中村区名駅 1-2-4)

出席者:山田幸良会長を含め 85 名

(司会進行 専務理事 豊見昭)

- | | |
|-----------------------------------|----------|
| 1. 開会挨拶 | 会長 山田幸良 |
| 2. 分科会運営委員会委員長挨拶 | 委員長 増田弘昭 |
| 3. 協会からの連絡事項とお願い | 専務理事 豊見昭 |
| 4. 分科会報告 | 各代表幹事 |
| 5. 第 13 回分科会功労賞、第 4 回委員会・部門功労賞表彰式 | 会長 山田幸良 |
| 6. 合同分科会に関わる情報交換会 | 分科会運営委員会 |
| 7. 自由討議 | 分科会運営委員会 |
| 8. 閉会挨拶 | 副会長 牧野尚夫 |

第 13 回分科会功労賞は 10 名、第 4 回委員会・部門功労賞は 4 名の方々が受賞された(9 頁 **4.5 分科会功労賞、4.6 委員会・部門功労賞**を参照)。

会議終了後、11 階柏の間において午後 6 時～午後 8 時の間、分科会連絡会議および委員会・部門連絡会議参加のメンバーによる懇親会と自由情報交換会が行われた。

2.5 委員会・部門連絡会議

日 時:平成 30 年 1 月 20 日(土) 午前 9 時 30 分～午後 3 時 30 分

場 所:名鉄グランドホテル(11 階・柏の間) (名古屋市中村区名駅 1-2-4)

出席者:山田幸良会長を含め 37 名

(司会進行 専務理事 豊見昭)

- | | |
|-------------------------------|-----------|
| 1. 開会挨拶 | 会 長 山田幸良 |
| 2. 協会からの報告と連絡事項 | 専務理事 豊見昭 |
| 3. 各委員会・部門の現状と平成 30 年度の計画について | 各委員会・部門代表 |
| 4. 全般討議(委員会運営に係わる全般事項等の討議) | |
| 5. 閉会挨拶 | 副会長 棚橋純一 |

2.6 委員長連絡会

第 1 回 平成 29 年 9 月 7 日(木)

大阪/出席者 16 名

2.7 諮問会議

第 1 回	(通算 54 回)	平成 29 年 4 月 11 日(火)	東京/出席者	10 名
第 2 回	(通算 55 回)	平成 29 年 7 月 11 日(火)	東京/出席者	11 名
第 3 回	(通算 56 回)	平成 29 年 10 月 18 日(水)	名古屋/出席者	8 名
第 4 回	(通算 57 回)	平成 30 年 3 月 1 日(木)	大阪/出席者	11 名

2.8 監査

日 時:平成 29 年 4 月 25 日(火) 13:30～15:00

場 所:京都/協会本部会議室

出席者:新井英植監事、中川晴雄監事、田畑信行監事

豊見専務理事、竹内事務局長、山田経理担当、志岐経理担当

議 事:平成 28 年度正味財産増減計画書、貸借対照表、公益目的支出計画実施報告書の監査並びに業務監査

3. 会 員

3.1 会員数

	平成 28 年度 開始時	平成 29 年度		
		入 会	退 会	終了時
正会員	365	21	6	380
法人	291	18	5	304
個人	74	3	1	76
賛助会員	6	1	0	7
合 計	371	22	6	387

(3/31 時点)

3.2 入会者

1) 法人会員(18 社)

①プロメテック・ソフトウェア(株)、②石原産業(株)、③山崎産業(株)、④(株)構造計画研究所、⑤ユーグロップ(株)
⑥(株)重松製作所、⑦白石工業(株)、⑧(株)フォトロン、⑨(株)日章アドミニプラン、⑩(株)ブランテック、⑪スペラフ
ァーマ(株)、⑫サイバネットシステム(株)、⑬(株)インサイト、⑭DEM Solutions Japan(株)、⑮(株)イメリスミネラルズ・
ジャパン、⑯(株)村田製作所、⑰島津サイエンス東日本(株)、⑱(株)シンコーメタリコン

2) 個人会員(3 名)

①酒井幹夫、②阿尻雅文、③高橋かより

3) 会友(1 名)

①杉山周宏

4) 名誉個人(1 名)

①川嶋嘉明

3.3 退会者

1) 法人会員(5 社)

①真壁技研(株)、②東京インキ(株)、③(株)リックス、④マイクロメティックスジャパン(同)、⑤日本ゴア(株)、

2) 個人会員 (1 名)

①川嶋嘉明

4. 表 彰

平成 29 年 5 月 23 日(火)、第 36 回定時総会に引き続き、第 31 回協会賞授賞式、第 24 回粉体工業展賞、第 9 回東京粉体工業展賞ならびに第 31 回粉体工業功績者の各表彰式を行った。又、平成 30 年 1 月 19 日、分科会連絡会議の席上において、第 13 回分科会功労賞、第 4 回委員会部門功労賞の授与式を行った。

4.1 協会賞(第 31 回)

技術賞 田門 肇(京都大学名誉教授)

4.2 粉体工業展賞(第 24 回)[細川明彦・佐知子基金補助]

槇野利光 (槇野産業(株))

4.3 東京粉体工業展賞(第 9 回)[細川明彦・佐知子基金補助]

矢澤英人 (株)ダルトン)

山口芳夫(ホソカワミクロン(株))

4.4 粉体工業功績者表彰(第 31 回)

(表彰項目別・法人会員名簿順)

No.	所 属 名	氏 名	項 目	No.	所 属 名	氏 名	項 目
1	(株)大川原製作所	山田 浩司	技術	15	東和制電工業(株)	岡元 軒	〃
2	大塚電子(株)	中村 彰一	〃	16	(株)奈良機械製作所	河村 広道	〃
3	塩野義製薬(株)	友田 宜孝	〃	17	日清エンジニアリング(株)	市原 浩	〃
4	(株)島津製作所	道下 晃	〃	18	日本エアフィルター(株)	岩田 昇	〃
5	(一財)電力中央研究所	日恵井 佳子	〃	19	赤武エンジニアリング(株)	増島 高昭	営業
6	東洋ハイテック(株)	石田 秀則	〃	20	(株)栗本鐵工所	大畑 和豊	〃

7	日本コークス工業(株)	秋野 洋一	〃	21	新東工業(株)	須山 健児	〃
8	藤崎電機(株)	嶋田 智久	〃	22	(株)ダルトン	稲垣 健児	〃
9	兵神装備(株)	玉江 隆一	〃	23	(株)パウレック	合志 忠俊	〃
10	(株)堀場製作所	山口 哲司	〃	24	ホソカワミクロン(株)	村上 正幸	〃
11	(株)増野製作所	中村 誠一	〃	25	エステック(株)	櫻井 浩	生産
12	三興空気装置(株)	川田 勝次	製造	26	中央化工機(株)	中村 英人	〃
13	ツカサ工業(株)	新美 嘉隆	〃	27	(株)徳寿工作所	安 泳鈞	〃
14	東邦冷熱(株)	篠邊 保	〃	28	フロイント産業(株)	池田 哲一	〃

(表彰項目内訳:技術開発 11名、製造技術 7名、営業活動 6名、生産管理 4名 計28名)

4.5 分科会功労賞(第13回)

(氏名 50音順)

No.	氏名	分科会名	所属名
1	阿川 直樹	計装測定	(株)セイシン企業
2	浅井 直親	粒子加工技術	(株)ダルトン
3	市川 卓司	混合・成形	大平洋機工(株)
4	岩松 英敏	造粒	(株)奈良機械製作所
5	岡安 功史	集じん	新東工業(株)
6	高田 真木	環境エネルギー・流動化	月島機械(株)
7	中村 圭太郎	微粒子ナノテクノロジー	(株)日清製粉グループ本社
8	藤本 信司	粉砕	(株)栗本鐵工所
9	三浦 正登	輸送	エステック(株)
10	村上 徹	粉体ハンドリング	アイシン産業(株)

4.6 委員会・部門功労賞(第4回)

No.	氏名	委員会名	所属名
1	上村 富彦	集じん技術	ホソカワミクロン(株)
2	寶田 馨	粒子特性評価	(公財)中谷医工計測技術振興財団(非会員)
3	西村 卓朗	人材育成	(株)西村機械製作所
4	森本 昌文	規格	カンタクローム・インスツルメンツ・ジャパン(同)

5. 粉体工業展

5.1 粉体工業大阪2017

5.1.1 概要

開催テーマ:粉づくり・ものづくり・夢づくり®-粉の技術-

会期:2017年10月11日(水)~13日(金) 10:00~17:00

会場:インテックス大阪(南港) 4・5号館

主催:(一社)日本粉体工業技術協会

後援:経済産業省近畿経済産業局、農林水産省、文部科学省、大阪府、大阪市、大阪商工会議所、国立研究開発法人産業技術総合研究所 関西センター、地方独立行政法人大阪産業技術総合研究所、公益財団法人関西・大阪21世紀協会、一般財団法人大阪科学技術センター、一般社団法人ナノテクノロジービジネス推進協議会、ナノ学会

特別協賛:粉体工学会、公益社団法人化学工学会、日刊工業新聞社、フジサンケイ ビジネスアイ

協賛:

塩ビ工業・環境協会

(一財)化学研究評価機構

(一財)機械振興協会

(公社)産業安全技術協会

(一社)資源・素材学会

(一社)製剤機械技術学会

(一社)セメント協会

(一社)電池工業会

(一社)日本機械学会

(公社)日本下水道協会

大阪科学機器協会

化成品工業協会

合成ゴム工業会

(一社)産業環境管理協会

(公社)新化学技術推進協会

製粉協会

耐火物技術協会

日本エアロゾル学会

(公社)日本空気清浄協会

(一社)日本砕石協会

カーボンブラック協会

環境資源工学会

骨材資源工学会

(一社)色材協会

人工軽量骨材協会(ALA協会)

石灰石鉱業協会

タングステン・モリブデン工業会

(一社)日本化学工業協会

(一社)日本計量機器工業連合会

(公社)日本材料学会

(一社)日本産業機械工業会	(一社)日本試薬協会	(一社)日本食品機械工業会
(一社)日本食品工学会	(公社)日本水道協会	日本製薬工業協会
日本製薬団体連合会	日本石灰協会	日本石鹼洗剤工業会
(公社)日本セラミックス協会	(一社)日本鉄鋼協会	(一社)日本電気計測器工業会
(一社)日本塗料工業会	(一社)日本乳業協会	(一社)日本粘土学会
(一社)日本農業機械工業会	日本肥料アンモニア協会	(一社)日本ファインセラミックス協会
日本プラスチック工業連盟	日本フレキシブルコンテナ工業会	日本粉末冶金工業会
(一社)日本包装機械工業会	日本無機薬品協会	日本薬科機器協会
ネオマテリアル研究会	(一社)表面技術協会	(一財)ファインセラミックスセンター
(一社)粉体粉末冶金協会	(一社)レーザプラットフォーム協議会	

展示規模:203社・団体/631小間
来場者:9,976名(登録入場者数)

同時開催:

- 粉体工学会 秋期研究発表会(主催:粉体工学会)
会期:10月10日(火)・11日(水)
会場:センタービル 2F 国際会議ホール 及び CD 会議室
- APPIE 産学官連携フェア 2017 シーズとニーズのマッチングー粉の技術ー
会期:10月12日(木)
会場:センタービル 2F 国際会議ホール 及び CD 会議室
参加者:136名

併催企画:

- 学生ツアー&交流会(企画:(一社)日本粉体工業技術協会 人材育成委員会)
会期:10月11日(水)9:20~13:00
会場:学生ツアー 「粉体工業展大阪2017」会場
講演会・交流会 F 会議室
参加者:96名(大学関係者、協会関係者、学生20名、企業48名)
- 製品技術説明会
会期:10月11日(水)~13日(金)
会場:4号館 A・B ルーム
参加者:延べ1,599名
- 未来材料ゾーン 出展社プレゼンテーション
会期:10月11日(水)~13日(金)
会場:4号館 A・B ルーム
参加者:延べ225名

併催セミナー・フォーラム

セミナー

- ◆粉体機器ガイダンス(講演と参加企業によるプレゼンテーション)
 - 1「混合・成形」
企画協力:混合・成形分科会
会期:10月13日(金)10:00~12:00
会場:センタービル 2F CD 会議室
参加者:104名
 - 2「計装測定」
企画協力:計装測定分科会
会期:10月13日(金)13:00~15:00
会場:センタービル 2F CD 会議室
参加者:76名
 - 3「粒子加工技術:プロセスと装置 ~ベーシック粒子加工プロセス」
(粉体機器ガイダンスと最新情報フォーラム)
企画協力:粒子加工技術分科会

会期：10月13日(金) 13:00～16:05
会場：センタービル 2F 国際会議ホール
参加者：184名

◆粉じん爆発情報セミナー

企画協力：粉じん爆発委員会
会期：10月11日(水) 14:00～17:00
会場：6号館 5F ホール G
参加者：150名

◆粉体シミュレーション基調講演・出展社プレゼンテーション

企画協力：粉体シミュレーション技術利用分科会
会期：10月11日(水) 13:00～16:00
会場：センタービル 2F CD 会議室
参加者：94名

◆粉のネットワーク～名刺交換会

会期：10月12日(木) 15:30～17:00
会場：展示会場 5号館 主催者コーナー
参加者：53名

◆ナノ粒子利用技術に関するセミナー「ナノ粒子利用のための実用プロセス技術」

企画協力：ナノ粒子利用技術委員会
会期：10月13日(金) 10:00～12:00
会場：センタービル 2F 国際会議ホール
参加者：202名

◆こなもん ことはじめ 粉体工学ガイドランス

(今回は、講演の後に講師との名刺交換と個別相談の時間を追加)
会期：10月11日(水)、12日(木)、13日(金) 10:10～11:20
会場：展示会場 4号館 B ルーム
参加者：延べ 218名

5.1.2 オープニングセレモニー

会期：10月11日(水) 9:45～10:00
会場：インテックス大阪 4号館前
主催者挨拶：日本粉体工業技術協会 会長 山田幸良氏
テープカット：全7名

5.1.3 開催記念レセプション

会期：10月11日(水) 17:30～19:00
会場：ハイアット・リージェンシー大阪 3F リージェンシーボールルーム D・E
参加者：229名

5.1.4 技術相談コーナー

会期：10月11日(水)～13日(金)の3日間
会場：展示会場 5号館 主催者コーナー
相談件数：35件 (各日2名の相談員にて対応)

5.1.5 主催者コーナー

- ・協会活動案内
協会の事業方針、活動方針の案内、協会誌“粉体技術”の紹介をはじめ、各種資料の配布を行った。
- ・分科会ポスター展示：
19の技術分野別分科会は、特徴ある組織と運営により、分科会活動への参加者に対し、粉体に関する広い知識、高度な技術、最新の情報等の獲得の場を作ることにより、社会のニーズに応じて、粉体に関連する技術の向上と産業の発展に大きく寄与
19分科会が、活動報告・粉体の近未来技術をポスター展示

- ・標準粉体展示コーナー

JIS(Z 8901)試験用粉体・ダスト、APPIE 標準粉体(日本粉体工業技術協会規格)、ACダスト・検定用粒子などの紹介を行った。

- ・協会誌“粉体技術”の紹介

- ・「粉体用語ポケットブック」を粉工展特別価格で販売した。(会期中に合計 38 冊販売)

5.1.6 カタログ展示コーナー

16 社 21 製品のカタログを展示

“新製品・新技術”、“ロングセラー製品”に分けて展示、紹介

来場者が自由に閲覧し、入手希望のカタログをその場で渡し、出展社に希望者リストを後日送付

5.1.7 粉体技術総覧 2016/2017 の発刊

冊子および CD-ROM で発刊し、会場において来場者に無料で配布

6. 常置委員会

6.1 総務委員会（赤堀肇紀委員長、松島徹、六車嘉貢各副委員長）

1.平成 29 年度の事業実績概要

1-1.【協会広報活動の推進】

- 1)「事業案内2017年度版」(日本語版)を作成・発行した。(700 部)
- 2) APPIEメールマガジンの発信を継続した。(発信数 60,963 通、前年比 1.7%増)
- 3) 協会の新刊書籍「粉体用語ポケットブック」400 部を役員、法人会員、個人会員に贈呈した。

1-2.【法人会員維持・増強の推進】

- 1) 法人会員を対象とした「協会活性化アンケート」について、回答結果を集計・分析し、「アンケート結果報告書」としてまとめた。また、報告書要約版も作成した。
- 2) アンケート結果を基に、協会活性化策につき討議した。
- 3)「粉体工業展大阪2017」出展の非会員会社に対し入会勧誘を行った。
- 4) 過去3年間の入退会リストを作成し、入会理由・退会理由を把握し増強と退会防止について討議した。

2.実施した会合、会議について

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.5.12	京都/協会京都本部 会議室	12	1. 平成 28 年度総務委員会体制 2. 平成 28 年度事業計画、活動方針の確認 3. 協会事務局からの報告(メルマガ配信・HP アクセス数、5 年史等) 4. 海外情報WGからの報告(第6回海外情報セミナー) 5. 活性化小委員会からの報告(法人会員アンケートなど) 6. 総務委員会の仕事について
2	H29.8.4	東京/東京ガーデン パレス 3階 鶴の間	11	1. 平成 28 年度の総務委員会事業計画の進捗状況確認 2. 協会事務局からの報告(メルマガ配信・HP アクセス数、5 年史等) 3. 法人会員アンケートについて 4. 総務委員会の仕事について
3	H29.12.7	大阪/ANA クラウン プラザホテル	12	1. H29 年度事業計画の進捗状況 2. H30 年度事業計画、予算、委員会日程について 3. 事務局からの報告(HP・メルマガアクセス数など) 4. 法人会員アンケートについて(報告書要約版、今後の改善活動など)

(小委員会)

平成 29 年度は未実施。

6.2 技術委員会（牧野尚夫委員長）

1.平成 29 年度の事業実績概要

- 1) 技術委員会の体制;委員長:牧野尚夫(副会長/技術担当、電中研)
特別委員:増田弘昭(顧問)、山田幸良(会長)、事務局:豊見昭
- 2) 業務所掌;委員会、分科会に共通する技術的問題への対応
- 3) 現在、「技術委員会」の傘下に「技術用語検討委員会」、「ナノ粒子安全性検討委員会」及び「ナノ粒子利用技術委員会」の 3 委員会がある。
- 4) 「技術用語検討委員会」は、「粉体用語ポケットブック」を 9 月末日に発刊し、10 月 11～13 日の粉体工業展大阪2017より本書の販売を開始した。(詳細は、「技術用語委員会」より報告)。
- 5) 「ナノ粒子安全性検討委員会」は活動を中止している。ただし、[リスク面]における技術情報のウォッチングは行い、その情報発信は「ナノ粒子利用技術委員会」で継続している。
- 6) 「ナノ粒子利用技術委員会」は平成 27 年度新設され、本年度の第 1 回委員会は 8 月 9 日に実施し、第 2 回は 2 月 2 日に予定している。粉体産業の将来を担うナノ関連技術を主体として活発な活動を行っている。(詳細は、「ナノ粒子利用技術委員会」より報告)。

2.実施した会合、会議について

今年度は開催せず

6.2.1 技術用語検討委員会（牧野尚夫委員長）

1.平成 29 年度の事業実績概要

- 1) 委員会の構成;委員長:牧野尚夫、委員:遠藤茂寿、山田昌治、白川善幸、特別委員:増田弘昭、事務局:豊見昭
- 2) 新書版の「粉体用語ポケットブック」を、初版 2,000 部、本体価格 1,800 円、総用語数約 1,400 語という内容で刊行した。
- 3) 上記書籍に関しては、9 月末日に初版の印刷を完了後、協会購入分 1,300 部(書店一般販売分は 700 部)の販売を 10 月 11~13 日の粉体工業展大阪2017より開始した(12 月末時点での販売冊数は既に 200 部を超えている)。
- 4) 協会購入分の中から、全会員に各一部を無料配布し、業務に役立てて頂くとともに販売促進を要請した。

2.実施した会合、会議について

本年度は、原稿の査読および修正対応、書籍作成と校正などが主な仕事だったため、全てメールなどでの仕事となり、会議などは行わなかった。

6.2.2 ナノ粒子安全性検討委員会（明星敏彦委員長、遠藤茂寿、近藤郁各副委員長）

-休会中-

6.2.3 ナノ粒子利用技術委員会（奥山喜久夫委員長、伊ヶ崎文和、福井武久各副委員長）

1.平成 29 年度の事業実績概要

- 1) 委員会の活動状況:本技術委員会は、平成 27 年 4 月 1 日に設置され、活動を開始した。本技術委員会の方向は、「ナノサイズならではの機能、ナノ化の利点、それを実現する取扱い・製造プロセスなど、ナノ粒子材料の利用についての技術的課題に関する情報を粉体技術業界へ提供し、会員の関連技術、装置の開発、商品化へとつなげていく」ことである。
- 2) 委員会の組織:技術委員会のメンバーは、企業関係委員、大学関係委員さらに協力分科会委員で構成されている。委員数が 20 名以上と多くなったために、コアメンバーを決めコアメンバーによる検討会を逐次開催し、委員会の方向性などを議論し、決定している。なお、ナノ粒子利用技術委員会組織:委員長○奥山、副委員長:○伊ヶ崎、○福井、特別委員:○増田顧問、○山田会長、○明星、委員:天内、後夷、梅谷、○荻、○後藤、菰田、杉村、瀬戸、竹内、谷、田原、中尾、○中村、林、久、藤、松坂、松元、横田、吉原 計 26 名、うちコアメンバー:9 名(○印)。なお、明星委員は、ナノ粒子のリスク関係の担当ということで、コアメンバーに加わった。
- 3) 活動状況:本年度は、本委員会を 2 回(平成 29 年 8 月 9 日および平成 30 年 2 月 2 日)、コアメンバーによる検討会を 3 回(平成 29 年 4 月 6 日、平成 29 年 10 月 13 日、平成 30 年 2 月 2 日のナノ粒子利用技術委員会の後)、開催した。本委員会では、ナノ粒子材料に関連する企業関係者が、これまで経験したナノ粒子材料を含む部材・製品あるいは、ナノ粒子を含むハンドリング操作に関して、可能な限り情報をオープンにし、各種の課題を克服する方向性を明確にし、課題を絞り、関連する話題提供を行い、議論を進めている。なお、ナノ粒子の安全なハンドリングに関連して、「ナノ粒子安全性検討委員会」の明星委員長が、「ナノ粒子の健康影響およびリスク管理」について、情報を提供した。
- 4) 平成 29 年 8 月 9 日開催の第 1 回本委員会では、「ナノ粒子のコンポジット化プロセス」に関して、平成 30 年 2 月 2 日開催の第 2 回本委員会では、「ナノ粒子の合成とリスク管理プロセス」に関して、それぞれ 3 名の方が、現状と課題を中心に講演を行い、今後の委員会の活動について議論した。なお、本委員会の委員が中心となり、粉体工業展大阪 2017 において、ナノ粒子利用技術に関するセミナー「ナノ粒子利用のための実用プロセス技術」を開催し、(1)ナノ粒子利用技術委員会の取り組み、(2)ナノ粒子スラリー塗布・薄膜化プロセスの基礎、現状、課題、(3)ビーズミルを用いたナノ粒子の分散技術、(4)積層セラミックコンデンサの動向とその原料技術の現状、が講演され、約 200 名の方が参加した。

2.実施した会合、会議について

(ナノ粒子利用技術委員会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.8.9	ホテルカンラ京都	27	「ナノ粒子のコンポジット化プロセスの現状と課題」に関する 3 件の講演と今後の委員会活動
2	H30.2.2	ホテルカンラ京都	28	「ナノ粒子の合成とリスク管理プロセスの現状と課題」に関する 3 件の講演、ナノ粒子のハンドリング操作の整理、今後の委員会の活動

(コアメンバーによる検討委員会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.4.6	京都/協会本部	11	・前回議事録の確認 ・第 1 回委員会の企画について
2	H29.10.13	インテックス大阪「ロ	13	・第 2 回委員会の企画について

		フト3」		・今後の委員会活動について
3	H30.2.2	ホテルカンラ京都	12	・平成30年度の活動について

6.3 「粉体技術」編集委員会（谷正美委員長、鈴木道隆、加納純也各副委員長）

1.平成29年度の事業実績概要

粉体関連産業の総合情報誌「粉体技術」の発行を行った。各号の特集内容は以下の通り。

月号	特集内容	月号	特集内容
4月号	協会を支える分科会活動	10月号	分級・ふるい分け技術の最近の動向
5月号	健康長寿社会の構築へ	11月号	アジアにおける粉体事情と協会の海外交流活動
6月号	PM2.5	12月号	これからのエネルギー技術
7月号	火薬と花火	1月号	働きたい女性も活躍できる社会を目指して
8月号	知的財産権の実際	2月号	粉体工業展大阪2017を終えて
9月号	食品原料としての粉	3月号	磨く粉・削る粉・洗う粉

2.実施した委員会

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.6.3	東京/東京八重洲ホール	17	1.協会中期計画への対応 2.2017年7月号以降の特集・担当確認 3.一般記事、コラム・取材記事などの進捗確認 4.議事録の確認と既刊号(4・5月号)振り返り 5.その他
2	H29.9.8-9	京都/ホテルコープイン京都	20	1.10月号以降の特集・担当確認 2.一般記事、コラム・取材記事などの進捗確認 3.2018年表紙デザイン選考 4.委員会の運営について 5.議事録の確認と既刊号(6～9月号)振り返り 6.2020年7月号までの特集内容・担当者決定 7.その他
3	H29.12.2	東京/東京八重洲ホール	15	1.2018年1月号以降の進捗と特集・担当確認 2.一般記事、コラム・取材記事などの進捗確認 3.委員会の今後について 4.議事録の確認と既刊号(10・11月号)振り返り 5.その他
4	H30.3.10	京都/メルパルク京都	17	1.2018年4月号以降の進捗と特集・担当確認 2.一般記事、コラム・取材記事などの進捗確認 3.特集企画立案の進め方について 4.委員会の運営について 5.議事録の確認と既刊号(12～3月号)振り返り 6.その他

(小委員会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.4.10	京都/協会本部	6	1.5月号記事の確認 2.他サイトからの転載と思われる文章について 3.「粉」と関連しない特集について
2	H29.5.15	京都/協会本部	5	1.6・7月号記事の確認 2.「粉の最前線」、「現場ルポ」のコーナー名について 3.「営業改革のABC」、「事業繁栄の原理原則」コラムについて 4.粉体関係でない記事のバランスについて 5.小委員会の運営について
3	H29.6.15	京都/協会本部	5	1.7・10月号記事の確認 2.粉体技術誌の収支安定への広告・購読数増加の取り組み 3.表記統一の確認 4.本委員会議論内容の報告
4	H29.7.14	京都/協会本部	6	1.8・9月号記事の確認 2.タナベ経営コラム継続について
5	H29.8.10	京都/協会本部	6	1.9・10月号記事の確認

				2.新連載コラム(案)について 3.粒子径分布の頻度分布での記載について
6	H29.9.11	京都/協会本部	6	1.10月号記事の確認 2.「粉体技術」購読募集チラシデザイン案について 3.編集小委員会の今後の体制について
7	H29.10.16	京都/協会本部	8	1.11月号記事の確認 2.海外特集について
8	H30.11.3	京都/協会本部	8	1.12月号記事の確認 2.「入門の予習編 第2章」について 3.「本気の事業承継」について 4.「スイス滞在記」 5.1月号冒頭見開きカラーページについて
9	H29.12.11	京都/協会本部	7	1.1月号記事の確認 2.「入門の予習編 第2章」について
10	H30.1.15	京都/協会本部	7	1.2月号記事の確認 2.粉体工業展報告記事執筆者の所属について 3.粉体工業報告記事の行事名称や講演タイトルについて 4.法人格の記載について
11	H30.2.13	京都/協会本部	7	1.3月号記事の確認 2.入門講座連載記事について 3.分科会活動報告記事について
12	H30.3.13	京都/協会本部	8	1.4月号記事の確認 2.年号の表記 3.組版時の数式や記号の属性 4.投稿募集の記載

6.4 推薦審査委員会 (加藤文雄委員長、赤堀肇紀副委員長)

1.平成29年度の事業実績概要

- 1) 年3回の会合で、各賞の表彰規定に則り、審査業務を実施した。
- 2) 「委員会・部門功労賞表彰規程」を一部改定し、受賞候補者を、非会員を含む委員経験者とした。(委員会規約では、委員の選任について法人会員に限定していないため)

2.実施した会合、会議について

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.10.20	京都/協会本部	8	1. 前回議事録の確認について 2. 分科会功労賞および委員会・部門功労賞選考について 3. その他
2	H30.1.24	京都/協会本部	9	1. 個人会員候補者の選考について 2. 会友候補者の選考について 3. 個人会員の名誉個人会員への移行について 4. その他
3	H30.2.23	京都/協会本部	9	1. 協会賞候補者の選考審査について 2. 粉体工業展賞候補者の選考審査について 3. 粉体工業功績者候補の選考審査について 4. その他

(小委員会)
開催なし

6.5 粉体工業展委員会 山田幸良委員長、村田博、菅原一博各副委員長)

1. 平成29年度の事業実績概要

1) FOOMA JAPAN 2017(国際食品工業展2017)参加

- ・平成29年6月13日(火)～16日(金)、東京ビッグサイト 東1～8ホール
- ・食品機械を中心に原料処理から製造、物流にいたるまで食品製造プロセスのすべてを網羅したアジア最大級の「食」の総合展(出展社数:789社 [昨年686社])
- ・協会ブース;幅3m×奥行2.5m、1小間 ポスター&雑誌の展示とパンフ&チラシ配布
- ・同来場者;4日間で64名(一般:51、協会関係者:13)

2)粉体工業展大阪2017を開催(詳細は大阪粉体工業展委員会より報告あり)

- ・平成 29 年 10 月 11 日(水)～13 日(金)、インテックス大阪(南港)4・5 号館
- ・開催規模:203 社・団体/621 小間(前回:196/616)
- ・来場者:9,976 名(前回:8,568 … 16.4%増)
- ・食品関連の「FABEX 関西」および「フードマシナリー関西」との同時開催として開催、相互入場者は 738 名(7.4%)であった。セミナーなど併催行事なども殆ど満員となり成功裡に終えることができた。

2. 実施した会合、会議について

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.7.11	東京/東京ガーデンパレス	16	2020 年(オリンピック開催年)問題の現状報告の後、情報の共有化と今後の対応・進め方などに関し討議した。
2	H30.1.16	東京/種苗会館 6F	15	東京ビッグサイトからの情報を中心に状況確認とその対応などを協議

6.5.1 東京粉体工業展委員会 (村田博委員長、大川原正明、楨野利光各副委員長)

1.平成 29 年度の事業実績概要

1-1 国際粉体工業展東京 2018(第 22 回)の企画策定

- 1) 会期・会場:H30 年(2018 年)11 月 28 日(水)～11 月 30 日(金)、3 日間
開場時間 9:30～17:00 会場:東京ビッグサイト 東展示棟 1・2・3 ホール
- 2) 開催テーマ:「この一粒…夢をかたちに 一粉の技術」
- 3) 出展料:会員 334,800 円 一般 378,000 円(消費税 8%込み、前回 2016 と同じ)
(新たに角小間指定料 64,800 円(消費税 8%込み)を設定)
- 4) 開催規模目標:有料規模 860 小間(前回 850 小間)
- 5) 併催行事、関連行事
 - ①特別講演 経団連副会長、三菱電機取締役相談役山西健一郎氏
 - ②粉体工学入門セミナー 3 日間各日 終了後名刺交換会を予定
 - ③粉体機器ガイダンス(機器選定の基礎):輸送、分級ふるい分け、粉体シミュレーションを予定
 - ④最新情報フォーラム 先端材料、電池、包装を予定
 - ⑤ナノ粒子技術利用セミナー ナノ利用技術委員会にて検討
 - ⑥海外情報セミナー 海外交流委員会にて検討
 - ⑦粉じん爆発情報セミナー 粉じん爆発委員会にて検討
 - ⑧学生ツアー・交流会 人材育成委員会にて検討
- ・粉の広場
 - ①アカデミックコーナー②テーマ展示③技術相談、分科会展示コーナー、標準粉体コーナー等を予定
- ・出展社行事
 - ①製品技術説明会②特別展示ゾーン、出展社プレゼン
- ・式典関係:オープニングセレモニー、開催記念レセプション
- ・粉体工学会関連行事:展示会初日(11/28)に秋期研究発表会を展示会場内、第 2 会場にて開催予定。粉体工学会にて企画運営

6) 粉体技術総覧 2018/2019 発行:書籍 15,000 部予定 (2019)大阪展分込み

- ・従来の粉体技術総覧の内容を全面的に見直し、単純な機器カタログ集ではなく粉粒体製造に関わる方(来場者)の目線で必要な事が網羅されているガイドブックにする。
- ・来場者には展示会以降も活用でき、出展者には営業補助となるような資料にする。
- ・新たに粉体技術研究者のページを設ける。

7) 広報・出展促進活動

- ①Web、メール配信、ダイレクトメール(招待状 DM)、交通広告(ゆりかもめ)等
- ②展示会での営業

粉体工業展大阪 2017	H29.10.11～10.13
INCHEM TOKYO2017	H29.11.20～11.22
中部パック	H30.4.18～4.21
FOOMA Japan 2018	H30.6.12～6.15

海外展示会での広報:ニュルンベルク、上海粉体工業展、シカゴ粉体工業展を予定。

2.実施した会合、会議について

(本委員会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.6.6	東京/種苗会館 6F	30	1.委員の役割分担について 2.全体スケジュール 3.国際粉体工業展東京2018の基本構成 4.その他(粉体技術総覧について)

2	H29.8.22	東京/種苗会館 6F	29	1.事前アンケートの報告、検討 2.開催要項(案) 3.特別講演の講師候補・テーマ 検討 4.最新情報フォーラム・特別展示ゾーンのテーマ 検討 5.併催行事・粉の広場企画 検討 6.海外企業向け PR(ニュルンベルク等) 7.粉体技術総覧の刷新について
3	H29.11.7	東京/種苗会館 6F	29	1.併催行事について確認 詳細概要およびスケジュールの確認 2.出展促進状況報告 3.海外展示会報告 4.総覧報告
4	H30.2.16	東京/種苗会館 6F	30	1.出展促進計画と出展状況報告 2.広報活動計画 3.併催行事企画 特別講演、粉体工学入門セミナー、粉体機器ガイダンス、最新情報フォーラム、 海外情報セミナー、粉じん爆発情報セミナー、ナノ粒子技術利用セミナー等進捗状況 4.粉の広場企画 団体コーナー、流動床、各動画放映等進捗状況 5.その他(粉体技術総覧、シカゴ iPBS、2020 年について)

(正副委員長会議)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.5.12	東京事務所	9	第1回本委員会(6.6)と同じ
2	H29.7.28	東京事務所	8	第2回本委員会(8.22)と同じ
3	H29.11.1	東京/種苗会館 6F	8	第3回本委員会(11.7)と同じ
4	H30.2.8	東京事務所	8	第4回本委員会(2.16)と同じ

(粉体技術総覧小委員会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.7.10	東京/種苗会館 6F	13	1.粉体技術総覧 2018/2019 の内容について 2.スケジュールと作業分担について
2	H29.9.5	東京/種苗会館 6F	14	1.粉体技術総覧の製作依頼先について 2.「粉体の基礎及び粉粒体操作の流れと分類」の内容検討 3.「粉体技術の研究者」掲載対象者と内容
3	H29.11.7	東京/種苗会館 6F	14	1.構成/募集方法/スケジュール 電子ファイル配布方法 2.協会 HP 掲載との関係 3.機器分類 4.「粉体技術の研究者」進捗 5.「粉体技術の基礎及び粉粒体技術操作の流れと分類」原稿依頼
4	H30.1.22	東京/種苗会館 6F	11	1.申し込みの現状報告・原稿制作の進め方 2.広告枠の位置づけ確認 3.WEB ページについて 4.機器分類 5.その他 執筆依頼の手順
	H30.3.1 (打合せ)	東京事務所	5	機器分類項目検討
5	H30.3.15	東京事務所	15	1.これまでの営業進行報告 2.掲載を増やすための取り組みについて 3.WEBページ案について 4.申込み後にご記入いただく記事作成フォームについて 5.執筆原稿・協会ページについて 6.粉体工学会 研究者について 7.その他

(広報(出展・来場促進)小委員会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.9.6	東京/種苗会館 6F	12	1.出展促進計画と今後のスケジュール 2.広報活動(前回実績)と新規検討案
2	H29.12.7	東京/種苗会館 6F	12	1.出展促進計画 2.出展状況報告 3.広報活動計画
3	H30.3.8	東京/種苗会館 6F	15	1. 出展状況報告 2. 今後の出展促進計画 3. 広報活動計画 .国内(紙媒体/リスティング広告/交通広告/抽選会/プレスリリース他) .海外(リスティング広告他) 4. その他

(併催行事(粉の広場)小委員会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.11.1	東京/種苗会館 6F	12	1.併催行事 進捗確認、検討 2.粉の広場企画(テーマ展示)検討

6.5.2 大阪粉体工業展委員会 (菅原一博委員長、加藤文雄、高倉正紀、花川忠己各副委員長)

1.平成 29 年度の事業実績概要

1) 第 12 回目となる粉体工業展大阪2017を開催し、盛況裡に終了することができた。

粉体工業展大阪2017の開催実績

- ・開催日時:2017年10月11日(水)～13日(金)10:00～17:00
- ・会場:インテックス大阪(南港)4・5号館
- ・開催テーマ:粉づくり・ものづくり・夢づくり ―粉の技術―
- ・開催規模:203社・団体、621小間
- ・来場者数:9,976名(実質登録入場者数)(前回比:16.4%増)

併催行事

- ・粉じん爆発情報セミナー
- ・粉体シミュレーション基調講演+出展社プレゼンテーション
- ・ナノ粒子利用技術に関するセミナー
- ・粉体機器ガイダンス「混合・成形」
- ・粉体機器ガイダンス「計装測定」
- ・粉体機器ガイダンス&最新情報フォーラム「粒子加工技術:プロセスと装置」
- ・学生ツアー&交流会
- ・こなもんことはじめ [粉体工学ガイダンス]
- ・粉のネットワーク(名刺交換会)
- ・技術相談コーナー

2) 今回の開催を総括して

・前回に引き続き4・5号館での開催となり、出展社・小間数増加が課題だったが、早い段階から PR 等で対策を実施したことにより、前回 196 社・団体、616 小間から今回 203 社・団体、621 小間と出展社、小間数とも増加した。

・来場者数も、前回 8,568 名から 9,976 名と増加し、活気のある展示会となった。外的要因としては景気の回復、内的要因としては PR の強化(従来の広告に加え、検索サイトのリスティング広告の追加等)、後述するように同時開催展示会と相互入場を可能にしたことなどが挙げられる。

・今回は初の試みとして、1・2号館で同時開催の展示会「FABEX 関西」「フードマシナリー関西」と連携し、相互入場を可能とした。結果は、「FABEX 関西」「フードマシナリー関西」から粉工展への入場者は 738 名となり、来場者数増加に貢献した。

一方、「FABEX 関西」「フードマシナリー関西」からの入場時には再度登録を求めたことにより、煩わしさを嫌い粉工展に入場せずに帰ってしまう人も見られた。次回も同日開催展示会との相互入場を予定しており、他展示会からの入場者がスムーズに入場できるよう検討する必要がある。

また、同時開催展示会主催者より連携を深め、PR の強化等を行っていく必要がある。

・大阪粉工展は成熟した、内容の濃い展示会になってきたとの印象がある。実際に、来場者、出展社からは「活気があり良い展示会だった」「実りある商談があった」との意見が多数あった。

・併催行事については、昨年度の国際粉体工業展東京2016に引き続き、大阪粉工展としては初の試みとして「粉体機器ガイダンス」を 3 分科会の協力により実施した。今回は講演と幹事会社のプレゼンに重点をおき、聴

講者数も多く、分科会から好評であったため、次回大阪粉工展でも同ガイダンス開催を検討したい。

2.実施した会合、会議について

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.4.18	京都/協会本部会議室	25	1. 出展状況 2. 会場構成 3. 併催イベント 4. 広報 5. 開会式、開催記念レセプション 6. 同時開催展示会 7. 会場運営 WG 8. その他
2	H29.7.4	京都/協会本部会議室	28	1. 出展状況報告と開催規模 2. 実行予算(収入見込) 3. 開会式、開催記念レセプション 4. 併催イベント 報告と担当 5. 広報計画 6. カタログコーナー 7. アンケート 8. その他
3	H29.12.8	京都/京都タワーホテル	39	反省会 1. 結果報告/各種アンケート報告 2. 委員・出席者のコメント 3. 今後の課題について討論
4	H30.2.8	京都/協会本部会議室	9	「粉体工業展大阪2017」監査会

(広報小委員会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.4.18	京都/協会本部会議室	13	1. 広報計画の検討 2. 広報計画スケジュール 3. その他

(小間割委員会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.7.4	京都/協会本部会議室	12	1. 開催規模について説明 2. 小間割図(案)の提案と検討

(会場運営ワーキング委員会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.9.26	京都/協会本部会議室	19	1. 委員自己紹介 2. 展示会概要、会場運営ワーキンググループの業務、会場図面、装飾規定についての説明 等

6.6 分科会運営委員会 (増田弘昭委員長、浅井信義、伊ヶ崎文和、鈴木康夫各副委員長)

1.平成 29 年度の事業実績概要

委員の担当決定と、下記 1)～4)の目標の確認・実施を開始。

委員長:増田、副委員長:伊ヶ崎、浅井、鈴木、委員:村上、奥山

分科会体制検討担当委員(増田委員長、伊ヶ崎副委員長、奥山委員)

運営担当委員(浅井、鈴木副委員長、村上委員)

- 1) 分科会の体制と運営に関する検討。職務の確認及び組織の見直し、関連規定の整備。
- 2) 分科会実行上の課題の検討と、それに伴う分科会各種手続きの見直し、及び対応する運営人材の育成・継承と関連規定の整備。
- 3) 拡大分科会運営委員会及び分科会連絡会議を、協会本部と各分科会および分科会間相互の意志疎通の場、情報交換や情報共有の場として役割を明確化。
- 4) 各分科会と協会本部、各分科会と関連委員会との間のインターフェースの役割をはたす。

2.実施した会合、会議について

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.7.7	名古屋/安保ホール	8	1. 新委員長挨拶(会長挨拶) 2. 新委員会メンバーの紹介、議事録担当者指名

				3. 委員会の役割の確認 4. 各委員の役割の設定 5. 平成 29 年度拡大分科会運営委員会の準備 6. 現在の分科会と将来構想
2	H29.8.25 拡大分科会運営委員会	メルパルク京都	38	1.開会挨拶 2.会長挨拶 3.分科会及び分科会運営委員会メンバー挨拶 4.事務局からの連絡 5.静電気利用技術分科会の廃止 粉体シミュレーション技術利用分科会の新設 6.H29 年度分科会の成果と課題発表 7.自由討議
3	H29.10.10	京都/協会本部	10	1. 前回議事録(第 1 回委員会)の確認 2. 分科会運営相談会と拡大分科会運営委員会にて提起された問題点の整理と検討 3. 分科会の新設・統合について 4. 委員長連絡会(9/7)の報告 5. 分科会連絡会(H30,1/19)の次第と役割分担
臨時	H30.1.19	名古屋/名鉄グランドホテル	10	1.粒子積層技術分科会新設について
4	H30.3.5	京都/協会本部	9	1. 前回議事録(第 2 回委員会)の確認 2. 平成 30 年度の方針と事業計画 3. H29 年度分科会連絡会議を振り返って 4. その他

6.7 海外交流委員会 (松本幹治委員長、浅井信義、横山豊和各副委員長)

1. 平成 29 年度の事業実績概要

- 1) APPIE Annual Report 発行(4 月) 平成 28 年度の協会の行事や活動内容、情報を記載した英文レポートを作成し、協会ホームページに掲載すると同時に、約 400 の海外の交流先(団体・個人)にメール配信した。
- 2) NM China 創立 10 周年 記念式典(3.22)に 3 名(山田会長、松本委員長、辻前委員長)参加(正式には H28 年度の実施内容)。
- 3) APT 台湾出展(7.30~8.3) 協会と粉体工学会との連携、粉体技術の PR のためにブース設置(運営は学会で対応)。山田会長が出席してスピーチした。
- 4) POWTECH 2017 に 9 年ぶりで、交換ブースを設置し、協会の活動と東京/大阪粉体工業展の広報を行った。会長、副会長、海外交流委員長と NM 幹部が今後の協力を確認した。協会ブースで 3 社の会員企業のポスター展示を行い、欧州等での海外事業拡大の足掛かりとした。
- 5) POWTECH にツアー(9.24~9.30)を実施し、18 名の参加者を得た。POWTECH 視察のほか AVA 社と Glatt 社を見学した。詳細は「粉体技術」誌の 12 月号(2017)に掲載済み。
- 6) IPB China 2017(中国・上海での粉体工業展、主催 NM China、10.16~10.18)で、協会ブース(無料)を設営し、協会会員と国際粉体工業展東京 2018 の PR、技術相談を行った。また、共同出展ブース Japanese Pavilion を設営し、出展参加企業のサポートを行った。会員企業 7 社が出展した。
- 7) 第 7 回海外情報セミナーを「東南アジア進出で成功するための必須ポイント」というテーマで開催(12.13)し、ジェトロ等から知的財産、PL 保険、その他の法規制等についての講演を行い、56 名の参加を得た。

2. 実施した会合、会議について

(海外交流委員会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.7.3.	東京/種苗会館	11	1.議事録確認 2.POWTECH2017 の準備、体制 3.POWTECH ツアーの準備、体制 4.IPB China の準備、体制 5.第 7 回海外情報セミナーの実施可否 6.その他
2	H29.11.15	京都/協会本部	16	1. POWTECH2017 展示会の報告 2. POWTECH ツアーの報告 3.IPB China(上海、中国)の報告 4.第 7 回海外情報セミナーの準備

				5.iPBS シカゴの準備 6.次年度(平成30年度)事業計画 7.その他
3	H30.3.6	東京/種苗会館	14	1. 次年度事業計画の確認 2. iPBS シカゴの準備、派遣者確認 3.第8回海外情報セミナーの企画 4.その他

(正副委員長会議)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29. 6.9	東京/種苗会館	4	1. POWTECH 協会ブース設置計画 2. POWTECH ツアー計画
2	H29.11.15	京都/協会本部	3	1. 次年度計画について 2. その他
3	H30.3.26	東京/種苗会館	4	1. 次年度の人事・組織確認 2. 次年度事業計画確認 3. その他

6.8 人材育成委員会 (西村卓朗委員長、浅井信義副委員長)

1.平成 29 年度の事業実績概要

- 1)若手のつどいを開催(年 4 回、うち 2 回は東京と関西でグループ討議方式)
- 2)粉体工業展大阪 2017 学生ツアー・交流会の企画運営(平成 29 年 10 月 11 日(水)開催)
 - ・工学院大学・山田昌治先生による講演「粉体技術者になろう」
 - ・若手先生による展示会ツアー・及び交流会
参加者:学校 20 名、企業 48、先生及び委員&関係者 28 名 合計 96 名
 - ・会員企業に不定期に行う採用の考え方を中心にアンケートを実施した。

2.実施した会合、会議について

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.6.7	東京/ホテル機山館	14	1.平成 29 年度の事業計画の確認 2.粉体工業展大阪 2017「学生ツアー・交流会」 3.次回(2017 年 8 月)及び今後の「若手のつどい」について 4.本日の「若手のつどい」について 5.その他 ・大学への求人について ・雇用延長に伴う諸制度の研究会(当社の方向性:アシザワ・ファインテック㈱)
2	H29.8.23	大阪/ホソカワミクロン ㈱	12	1.粉体工業展大阪 2017「学生ツアー・交流会」 2.次回(通算第 62 回)若手のつどい及び今後の「若手のつどい」について 3.本日の「若手のつどい」について 4.その他 ・大学へのリクルートについて ・参加費を支払った欠席者への対応
3	H29.11.8	東京/ホテル機山館	12	1. 前回議事録の確認 2. 粉体工業展大阪 2017 学生ツアー・交流会の感想・反省点 3. 次回、第 63 回「若手のつどい」(平成 30 年 3 月について) 4. 平成 30 年度「若手のつどい」 5. 平成 30 年度委員会等開催予定 6. 本日の「若手のつどい」分担について 7. その他 ・大学への求人について
4	H30.3.29	東京/法政大学	13	1. 前回の議事録確認 2. 次年度(平成 30 年)事業計画 3. 次回(通算第 64 回)「若手のつどい」について

				4. 国際粉体工業展東京 2018「学生ツアー・交流会」 ・平成 30 年 11 月 27 日(火)展示会前日、学生向けセミナー「企業とは」について 5. 若手のつどい参加者増強について 6. リクルートアンケート結果について 7. 本日の「若手のつどい」の役割分担、進行方法 8. その他 ・委員長・副委員長交代について ・平成 30 年度委員について
--	--	--	--	--

(小委員会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H30.2.22	東京事務所	3	リクルートアンケート集計方法検討

(若手のつどい)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.6.7	東京/ホテル機山館	45	第 60 回講師:産業技術総合研究所 環境管理研究部門 総括研究主幹 大木達也氏 テーマ:「粉体技術が世界の金属資源を支配する」
2	H29.8.23	大阪/ホソカワミクロン(株)	44	第 61 回 6 名の先生方による、プレゼンテーション、グループ討議、情報交換など
3	H29.11.8	東京/ホテル機山館	41	第 62 回講師:イワサ株式会社(東大阪市) 代表取締役社長 岩佐嘉昭氏 テーマ:「日本の親父になれたらなっ!」
4	H30.3.29	東京/法政大学	44	第 63 回研究室見学、先生方による、プレゼンテーション、グループ討議、情報交換など

6.9 標準粉体委員会 (森康維委員長、後藤邦彰副委員長)

1.平成 29 年度の事業実績概要

- ・協会規格の見直しを実施し、規格委員会に答申した。
- ・MBP ガラス粒子を標準物質(CRM, RM)として RMinfo に登録した。世界的な機関に CRM として収載されるかを確認している。
- ・JIS Z 8901「試験粉体 1」改訂に向けて、粒子径分布測定方法を沈降天秤法から市販されている測定装置への変更が可能であるかを調査している。また、ポリスチレンラテックスの取り扱いについても調査を実施している。
- ・規格委員会から要請されている SAP 14-12「SAP 試験用粉体 3」の JIS 規格化を検討している。特に、粒子径分布測定方法を検討している。

2.実施した会合、会議について

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.7.26	協会本部会議室	13	1. 協会規格の見直し ・SAP09-94「基準粉体」: 協会規格を廃止 ・SAP11-05「比表面積検定用粉体」: 現状で継続、引用規格の名称変更 ・SAP 14-12「SAP 試験用粉体 3」: 現状で継続、協会規格を廃止 2. ガラスビーズ(MBP 粒子)の認証標準物質登録作業。 2017/7/26 RMinfo に登録 3. JIS Z 8901「試験粉体 1」改訂に向けて ・粒子径分布測定方法の検討: Micromeritics 社 SediGraph 5210 と LUM 社 LUMiSizer で関東ロームの測定を依頼 ・ポリスチレンラテックスの規格値の検討(進行中)
2	H30.3.19	協会本部会議室	16	1. ガラスビーズ(MBP 粒子)の COMAR database 登録の確認(現状未登録) 2. JIS Z 8901「試験粉体 1」改訂に向けて ・沈降法での測定結果の評価 SediGraph 5210 と LUMiSizer ・レーザー回折法での測定結果の評価

				スペクトリス社製と島津製作所製 3. SAP 14-12「SAP 試験用粉体 3」の粒子径分布測定法の検討
--	--	--	--	--

6.10 規格委員会（遠藤茂寿委員長、松山達副委員長）

1.平成 29 年度の事業実績概要

1-1 JIS 規格の作成・見直し

- 1) 平成 29 年度 JIS 原案作成: 日本規格協会 (JSA) に申請した以下 4 件の原案を作成中
 - JIS Z 8828, Z 8826 (DLS, PCS) の改正・統合 (ISO 22412:2017 に対応) (委員長: 森先生)
 - JIS Z 8909-2, Z 8909-3 (バグフィルター耐久性試験) の改正・統合 (ISO 16891:2016 に対応) (委員長: 金岡先生)
 - 「微小粒子の破壊及び変形強度の測定方法」の JIS 制定 (委員長: 斎藤先生)
 - JIS Z 8801-1:2006 (試験用金属製網ふるい) の改正 (ISO 13310-1:2016 に対応) (委員長: 松山先生)
- 2) JIS の定期見直し: 5 件の見直し
 - 4 件を確認 (継続), 1 件 (JIS Z 8828:2013) を改正と回答
- 3) 新規 JIS の制定
 - JIS Z 8836:2017「コロイド分散系-ゼータ電位の光学的測定法」が発行 (2017-08-21)
 - 昨年度作成した JIS Z 8837 (ガスピクノメータによる骨格密度測定), Z 8850 (凝縮粒子計数器の検定), Z 8827-1 (粒子径解析: 静止画像法) が JISC で承認

1-2 協会規格の作成・見直し

- 1) 原案作成: なし。
- 2) 見直し: 8 件について実施
 - 7 件は確認 (継続) とした。
 - SAP 09-94 基準粉体を廃止 (JIS Z 8901:2006 の制定によって),

1-3 規格・標準化事業の成果の普及・広報

- JIS Z 8890:2017 (粒子特性評価に関する用語) を粉体技術誌で紹介。
- ISO/TC 24/SC 4 アーバイン会議の概要を粉体技術誌で報告。

1-4 規格関連委員会の動向把握

- 関連する ISO (TC 24, TC 24/SC 4 及び SC 8, TC 142/WG 5 及び WG 7, TC 229, TC 281) 及び薬局方の動向について, 参加している委員から報告を受け, 状況の把握を行った
- 標準粉体委員会や 3D プリンターの規格化に関する情報も把握した。

1-5 規格・標準化関係の事業推進の効率化及び財政負担の軽減

- 協会「中期運営計画」の指摘を受け, 規格・標準化関係組織 (規格委員会, ISO 対応委員会及び小委員会, 並びに JIS 原案作成委員会) を規格委員会のもとに統合した。
- 各委員会の事業に即した自主収入, 財政負担軽減について検討を進めた。

2.実施した会合、会議について

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29. 6.23	東京/種苗会館 6 階 会議室	9	1. 前回議事録の確認 2. 新規規格・標準化関係事業 3. 規格類 (SAP, JIS, ISO) の確認 4. JIS 規格見直し及び原案作成 5. 規格関連委員会の動向 6. その他/規格・標準化事業の効率化・広報活動
2	H29.12.20	東京/種苗会館 6 階 会議室	11	1. 前回議事録の確認 2. 規格類 (SAP, JIS, ISO) の確認 3. JIS 規格見直し及び原案作成 4. 格標準化セミナー／広報 5. 規格関連委員会の動向 6. その他

(傘下の委員会に関しては、個別の委員会で報告)

6.10.1 粒子特性評価委員会（桜井博委員長、伊串達夫副委員長）

1.平成 29 年度の事業実績概要

本委員会は現在 48 名の委員により構成され、ISO/TC 24/SC 4 (粒子特性評価委員会) において行われている粉体・粒子測定に関する ISO 国際標準化活動に参加し、適正な規格文書が迅速に作成されるよう活動を行っている。平成 29 年度も、規格文書の作成、新たな規格の提案、承認投票、定期見直し等の作業を行うとともに、2 回の国際会議に代表団を派遣し、文書案の審議を行った。また、年 2 回の頻度で委員会を開催し、規格作成や国際会議での審議の方針について検討を行った。

- 1) ISO/TC 24/SC 4 第 52 回国際会議 (平成 29 年 5 月 29～30 日、東京)における規格審議
 - ・参加者:議長(ドイツ)、副議長(日本・松山氏)、国際幹事(日本・遠藤氏)、国際幹事補佐(日本・高橋氏)の他、9 カ国から計 72 名、合計 76 名。当委員会からは 27 名が参加。
 - ・14 の WG 会合が開催され、ISO 規格案の審議を行った。23 件の Resolution が採択された。
- 2) ISO/TC 24/SC 4 第 53 回国際会議(平成 29 年 11 月 9～10 日、アメリカ・カリフォルニア州アーバイン)における規格審議
 - ・参加者:議長(ドイツ)、副議長(日本・松山氏)、国際幹事(日本・遠藤氏)、国際幹事補佐(日本・高橋氏)の他、9 カ国から計 51 名、合計 55 名。当委員会からは 16 名が参加。
 - ・14 の WG 会合が開催され、ISO 規格案の審議を行った。9 件の Resolution が採択された。
- 3) 各審議段階での投票、規格発行、定期見直し、新規提案の件数(平成 29 年 1 月～12 月)
 - ・新規提案(NP)2 件、委員会段階(CD)1 件、照会段階(DIS)1 件、定期見直し(SR)6 件、技術報告書(DTR)1 件、SC 内投票(CIB)8 件に対して投票を行った。
 - ・2 つの ISO 規格、1 つの技術仕様書、1 つの修正票が発行された。
- 4) 遠藤委員が 2015 年 1 月から 3 年間担当していた SC 国際幹事業務は 2017 年 12 月末にてイギリスへと引き継ぎ、終了になった。

2.実施した会合、会議について
(委員会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.7.12	東京/種苗会館 6 階	33	1. 第 52 回 ISO/TC 24/SC 4 東京会議報告 2. 第 53 回 ISO/TC 24/SC 4 アーバイン会議への対応 3. 規格委員会、他 TC 報告 4.その他
2	H29.12.22	東京/種苗会館 6 階	30	1. 第 53 回 ISO/TC 24/SC 4 アーバイン会議報告 2. 第 54 回 ISO/TC 24/SC 4 ロンドン会議への対応 3. 規格委員会、他 TC 報告

(WG 6)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.10.25	東京/種苗会館 5 階	3	1. CD13320 コメント作成作業

(WG 12)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.7.12	東京/種苗会館 6 階	7	1. ISO/PWI 1996 に記載する電荷調整装置の性能表示項目、検査方法 2. ISO 27891 JIS 化作業時に見つかった要修正箇所の確認とその取り扱い
2	H29.10.31	ウェブ会議	7	ISO19996 に記載するメーカー出荷性能試験方法
3	H29.12.22	東京/種苗会館 6 階	7	1.ISO/TC 24/SC 4/WG 12 アーバイン会議報告 2.平成 29 年度第 2 回WG 12 委員会以降進捗確認 3.2018 年 4 月 London 会議までのスケジュール確認

6.10.2 ふるい委員会 (松山達委員長)

- 1.平成 29 年度の事業実績概要
 - ・活動実績(12 月までの範囲で)なし
 - ・3 月中に委員会を1回開催予定
- 2.実施した会合、会議について

回	時期	場所	人数	議題
1	H30.1.24	東京/東京事務所	9	1.JIS8810-1 改定の件 2. SAP 08-99 の取り扱いについて 3. SC8 会議(2018 年 10 月、上海)の対応について

6.10.3 集じん技術委員会(金岡千嘉男委員長、福井国博副委員長)

- 1.平成 29 年度の事業実績概要
 - WG-A (TC146/SC1 に対応): 現在休止中
 - WG-B (TC142/WG7 に対応):ISO/NP 22031 Sampling and test method for cleanable filter media taken from filters of systems in operation の活性化が H29.4.6 - 6.29 の投票で承認された。実質的な論議を 9 月に開催された TC142 パリ会議において開始した。現在は、論議に基づいて修正した draft を、各国のエキスパートへ配信し、

彼らからの応答を待っている段階である。国内では、この規格原案策定のため、昨年度着手した、稼働中集じんシステムからのろ布のサンプリングを継続し、その劣化状況の測定を行っているところである。また、パリ会議において、金岡がコンベンナーに再任された。任期は3年である。

WG-C (TC142/WG5 に対応): WG5 コンベンナーがプロジェクトリーダーとなっている ISO16313 パート1が、活性化投票において、原案作成への積極的参加国数不足のため、不承認となり、日本が主導する Part2 への影響が心配されたが、9.25WG5 会議において、ドイツから、パート1は適用範囲が曖昧、もっと明確にすべきとの理由から反対したとの発言があり、逆に適用範囲を汎用小型集じん装置に限定するパート2への追い風となり、パート2の論議がスムーズに進む結果となった。また、パリ会議の後、CETIAT(リヨン)を訪問し、ラウンドロビンテストの打ち合わせを行い、パート2の規格化を加速することが出来た。また、国内におけるラウンドロビンテストについては、各種パラメータについて協議するとともに、テストに取り組みを進めている。

2.実施した会合、会議について
(委員会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.4.27	東京/種苗会館 6 階	19	1.委員会の構成 2.本年度の方針
2	H29.10.17	東京/種苗会館 6 階	12	1.今年度の活動進捗状況報告 2.平成 29 年度の集じん技術委員会の予算と実績見込み 3.その他
3	H30.2.2	東京/種苗会館 6 階	15	1.今年度の進捗の確認と今後の対応 2.協賛金のお願いについて 3.その他

なお、H29.8.1 に第 2 回集じん技術委員会の準備会議を実施した。(経費削減を踏まえた今後の取り組み方、パリ国際会議への方針の検討)

(WG-B)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.4.27	東京/種苗会館 6 階	14	1.H29 年度の計画 2.ろ布サンプリングの実施状況 3.ろ布耐久試験結果報告 4.昨年度試験の纏め並びに問題点
2	H29.9.12	広島大学	10	1. ISO/TC142/WG 7 パリ会議への方針 2. 劣化評価の検討
3	H29.10.17	東京/種苗会館 6 階	11	1.パリ会議(WG7)提出規格案説明と今後の作業計画
4	H30.2.2	東京/種苗会館 6 階	12	1.今年度の進捗の確認と今後の対応

(WG-C)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.4.27	東京/種苗会館 6 階	13	1.H28 年度ラウンドロビンテスト実施結果の報告 2. H29 年度の予定
2	H29.10.17	東京/種苗会館 6 階	8	1.パリ会議(WG5)提出規格案説明と今後の作業計画
3	H30.2.2	東京/種苗会館 6 階	11	1.今年度の進捗の確認と今後の対応

(WG-C作業部会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.5.26	京都/協会本部	10	1.PART-1(N0501)の投票結果報告 2.ラウンドロビンテスト案の決定 3.テスト予定粉体の検討 4.各測定機器の検討 5.広島大学でのラウンドロビンテストの準備状況報告
2	H29.9.12	広島大学	12	1. ISO/TC142/WG5 パリ会議への方針 2. ISO16313-2 提案試験方法・手順の検討

(国際会議)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.9.25-28	フランス/パリ TC142 総会 及び WG5,7 会議	3	WG5:ISO16313Part1、2 の論議。 Part2 の規格化論議をリード。 CETIAT(Centre Technique des Industries Aérauliques et Thermiques)、ろ過集じんシステム施設の視察と Part2 規格化への協力の取り付け WG7:ISO22031 の国際規格化論議をリード。

なお、H29.8.27-30 に瀋陽/中国:東北大学で会議を実施した。(WG5 および WG7 の共同提案国に関する協議、パリ会議における WG5 および WG7 の審議内容の協議)

6.10.4-1. 平成 29 年度 JIS 原案作成委員会(1) (森康維委員長)

-JIS Z 8828 粒子径解析—動的光散乱法の改正-

1.平成 29 年度の事業実績概要

1)原案の概要

ISO 22412 Particle size analysis -- Dynamic light scattering (DLS) の改正に伴い、対応する JIS Z 8828「粒子径解析—動的光散乱法」を改正する。この改正では、測定手法の進歩・拡張を含み、ISO13321 Particle size analysis -- Photon correlation spectroscopy の内容も包含した規格となっているため、対応する JIS 規格も改正する必要がある。なお ISO13321 は、ISO22412 に統合され、廃止となるため、ISO 13321 に対応する JIS Z 8826「粒子径解析—光子相関法」は、JIS Z 8828 に統合廃止とする予定である。

作成される JIS は、動的光散乱法の原理に基づく信頼性の高い粒子径分布評価方法が記載されており、ナノ粒子やサブミクロン微粉体製品の品質向上に寄与できると期待される。

2)原案作成の方針

- ・国際規格と技術的内容を一致させる。
- ・委員 13 名のうち、8 名の分科会委員で翻訳と校閲を担当。

3)1 月の分科会、2 月の本委員会で最終の審議、確認をし、原案とする。平成 30 年 2 月末までに原案を日本規格協会へ提出する。

2.実施した会合、会議について

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.4.4	協会東京事務所	14	JIS 原案作成の基本方針および作業スケジュールについて
2	H29.8.31	協会東京事務所	13	素案審議
3	H30.2.22	協会東京事務所	11	最終案審議、意見統一

(小委員会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.4.4	協会東京事務所	7	JIS 原案作成スケジュールの確認と作業分担について
2	H29.6.13	協会京都本部	8	翻訳素案審議
3	H29.7.28	協会京都本部	7	翻訳素案審議
4	H29.8.31	協会東京事務所	9	翻訳素案審議
5	H30.1.30	協会京都本部	10	翻訳素案審議
6	H30.2.22	協会東京事務所	6	素案審議

3.委員会・部門の今後の動向、運営などについて

今年度で委員会は終了となる。委員会は終了となるが、その後、規格協会との修正作業を経て、約 1 年後に JIS として制定となる見込みである。

6.10.4-2. 平成 29 年度 JIS 原案作成委員会(2) (金岡千嘉男委員長、福井国博副委員長)

-ISO 16891 : 2016 に対応する JIS 原案作成-

1.平成 29 年度の事業実績概要

1)原案の概要

JIS Z8909-2「集じん用ろ布の試験方法—第2部:耐久性試験方法」および JIS Z8909-3「集じん用ろ布の試験方法—第3部:耐熱性試験方法」をもとに国際規格化を提案し、2016 年 1 月に、ISO 16891 Test methods for evaluating degradation of characteristics of cleanable filter media として発行された。本規格は、その翻訳 JIS 原案を作成する。高温下で腐食性ガスによる集じん用ろ布の劣化特性を評価するための加速試験方法を規定したものである。ろ布性能の劣化特性が求められると、ろ布の寿命推定に利用できる。現在経験的に行われているろ布交換を、合理的に行うことが出来るようになる。なお、JIS Z8909-2 および JIS Z8909-3 は、新しい JIS が制定された段階で廃止を予定している。

2)原案作成の方針

- ・対応国際規格の IDT(一致)で JIS 原案を作成する。
- ・正副委員長及び遠藤分科会委員が作成の翻訳案を基に、分科会委員で練り直し、委員会全体で確認をする。

3)1 月の最終委員会で確認、承認し、規格協会へ提出とする。

2.実施した会合、会議について

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.4.26	協会東京事務所	16	JIS 原案作成の基本方針および作業スケジュールについて
2	H29.7.11	協会東京事務所	13	素案審議
3	H29.10.20	協会東京事務所	14	素案審議
4	H30.1.26	協会東京事務所	12	最終素案審議、意見統一

(小委員会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.4.26	協会東京事務所	6	JIS 原案作成スケジュールの確認と作業分担について
2	H29.7.4	協会東京事務所	4	素案審議

3.委員会・部門の今後の動向、運営などについて

今年度で委員会は終了となる。委員会は終了となるが、その後、規格協会との修正作業を経て、約 1 年後に JIS として制定となる見込みである。

6.10.4-3.平成 29 年度 JIS 原案作成委員会(3) (齋藤文良委員長)

-微小粒子強度測定 JIS 原案作成-

1.平成 29 年度の事業実績概要

1)JIS 原案の概要

Li イオン電池活物質やトナー粒子などは数 μm の粉体(微小粒子集合体)から構成されている。これら製品は我が国が誇る先進材料であり、その分野はセラミックス、化粧品、医薬品、超硬材料など広範囲にわたっている。これら分野における粉体製造では、粉体の基本単位である微小粒子の圧縮変形破壊における強度を評価することが不可欠である。微小粒子の強度試験の評価規格として、JIS、ISO、ASTM、日本薬局方などがあるが、既存規格の適用可能粒子径範囲は数 mm 以上であり、数 μm ~ 数十 μm という微小粒子径範囲には適用できない。

そこで、当該微小粒子径の強度評価に適合できる JIS 原案を作成し、規格制定することにより、我が国が誇る先進粉体材料製造分野の品質管理の信頼性向上と作業工程の迅速化が図られ、もって国際競争力向上につながる事が大いに期待できる。

2)原案作成の方針

- ・H29 年度に産総研で作成した JIS 素案を基に、曖昧表現の是正、各項目について、適宜追記、細目の追加などを行った。
- ・JIS 素案の解説書について、簡潔且つ必要事項に遺漏ないよう適宜追記などを行った。

3)原案についての今後の予定

- ・H30 年 2 月に第 2 回、同年 5 月に第 3 回委員会を開催し、同年 6 月末までに JIS 原案を日本規格協会へ提出する予定である。

2. 実施した会合、会議について

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.9.29	協会東京事務所	16	JIS 原案作成の基本方針および作業スケジュールについて
2	H30.2.9	協会東京事務所	16	素案審議

6.10.4-4 平成 29 年度 JIS 原案作成委員会(4) (松山達委員長)

-JIS Z8801-1 試験用ふるい - 第 1 部:金属製網ふるい-

1.平成 29 年度の事業実績概要

1)原案の概要

試験用ふるいは、鋳工業生産にあつて粒子状物質の粒子径分布計測の方法(及びそのための器具)として極めて広範に使用されている基盤技術である。JIS に於いても 300 を超える規格で引用されている。2016 年に対応する国際規格 ISO 3310-1 ISO 3310-1 Test sieves - Technical requirements and testing - Part 1: Test sieves of metal wire cloth の改訂版が発行された。それに伴い、JIS を改正するため原案を作成する。この主要改正内容は、ふるい目開きの許容差をこれまでより小さく(厳しく)するというものである。

2.実施した会合、会議について

回	月・日	場所	人数	議題
1	H30.1.24	協会東京事務所	11	JIS 原案作成の基本方針および作業スケジュールに

				ついて
--	--	--	--	-----

(小委員会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H30.2.27	協会東京事務所	4	JIS 原案作成スケジュールの確認と素案審議

6.11. 粉じん爆発委員会(土橋律委員長、山隈瑞樹、太田潔各副委員長)

1.平成 29 年度の事業実績概要

1)粉じん爆発・火災安全研修【初級／基礎編】(毎年秋、関東関西交互に開催)の開催

平成 28 年 9 月 4-5 日(月、火)に、労働安全衛生総合研究所で開催。70 名参加。第1日目講義終了後に交流会を開催した。

2)規格の作成

実施なし

3)行事等への対応

・粉体工業展大阪 2017 における「粉じん爆発情報セミナー」の企画・開催

10 月 11 日(水)14:00～17:00 開催。参加者 144 名

粉じん爆発に関する先端情報の発信・周知を目的として以下のように開催。

【主催者挨拶・トピックス紹介】 土橋律委員長(東京大学)

【学術情報】榎本委員(東北大名誉教授)「金属粉の爆発危険性」

【学術・技術情報】大澤氏(労安研)「静電気による爆発防止のリスクアセスメント手法」

【学術・技術情報】榎本委員(東北大名誉教授)「爆発特性値の見直しによる粉じん爆発危険性低減対策過負荷の抑制」

4)最新の規制、規格等動向把握

・安全試験国際規格調査検討ワーキング・グループの進捗

海外には多くの粉じん爆発・火災にかかわる安全試験規格が存在し、粉じん爆発試験等のJIS規格の将来を見据えた中で、国際規格との整合性を確認する。

WEBでの調査を実施した結果、欧米、中国で設備別の規格が多数あることを確認。

調査を進め、有用な規格を委員会で共有する方向で検討中。ISO/IEC80079-20-2(2016)の相違点等の確認をした。

2.実施した会合、会議について

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.6.20	東京/種苗会館 6階会議室	20	1.前回議事録確認 2.平成 29 年度粉じん爆発火災安全研修【初級】(基礎編) 準備 3. 粉工展大阪 2017「粉じん爆発情報セミナー」準備確認 4. WG進捗確認 5.見学会計画の確認 6.勉強会
2	H29.12.08	中外製薬工業 見学/西焼津セ ントラルホテル	17	1.前回議事録確認 2.中外製薬工業見学の振り返り 3.平成 29 年度 粉じん爆発火災安全研修【初級】(基礎編) 実施報告、アンケート結果報告、質問対応結果。 4. 粉工展大阪 2017「粉じん爆発情報セミナー」実施報告 5.研修テキスト改訂計画 6.平成 29 年度事業計画書(案)について
3	H30.3.13	東京/種苗会館 6階会議室	27	1.前回議事録確認 2.平成 30 年度 粉じん爆発火災安全研修【初級】(基礎編) 実施計画 3. 平成 30 年度 粉じん爆発火災安全研修【中級】(技術編) プログラム 4.国際粉工展東京 2018「粉じん爆発情報セミナー」プログラム。 5.研修テキスト改訂計画 6.平成 30 年度事業計画について 7.勉強会

7. 分科会

7.1 粉体ハンドリング分科会

登録会員数 324 人

(松本幹治コーディネータ、松坂修二副コーディネータ、村上徹代表幹事[アイシン産業㈱]、海老原裕之副代表幹事[日清エンジニアリング㈱])

平成 29 年度の事業実績概要

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.7.25	千葉/千葉共同サイロ㈱	29 (42)	(分級ふるい分けと合同) 工場見学と「粉じん爆発現象の基礎と爆発防止対策」をテーマとした技術講演及び製品紹介
2	H29.10.27	滋賀/㈱ダイフク構内 日に新た館	40	マテハン商品見学と「粉体のマテハン」をテーマにマテハン総論講演及び製品紹介
3	H29.12.14	東京/東京八重洲ホール	40	「粉体処理の困りごと、プラント計画における付着&磨耗対策」をテーマに技術講演と製品紹介
4	H30.3.9	東京/東京八重洲ホール	35	「粉体の計量・センシング技術」をテーマに計量・センシングに関する技術講演とそれに関連するメーカーによる製品プレゼンテーション

(幹事会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.7.25	千葉/魚民千葉みなと駅前店	9	第 1 回分科会の反省と次回分科会企画 コーディネータ・代表幹事交替の準備
2	H29.10.27	滋賀/米原市 米原公民館3B 研修室	11	粉粒体ハンドリング技術誌出版進捗 次期副コーディネータと代表幹事について討議
3	H29.12.14	東京都/八重洲 泰興楼 八重洲本店	10	第 3 回分科会の反省と次回分科会企画 粉粒体ハンドリング技術誌出版進捗
4	H30.3.9	東京都/八重洲 南天玉 八重洲店	8	第 4 回分科会の反省と次回分科会企画 書籍出版進捗と専門講座企画

(小委員会) 粉粒体ハンドリング技術出版 2013 年着手の同誌、2018 年 3 月製本完了。

(専門講座) 実施なし

(粉体エンジニア早期養成講座) 実施なし

7.2 粉砕分科会

登録会員数 135 人

(内藤牧男コーディネータ、加納純也副コーディネータ、海老原尚代表幹事[東京アトマイザー製造㈱]、須長克行副代表幹事[古河産機システムズ㈱]、藤本信司副代表幹事[㈱栗本鐵工所])

平成 29 年度の事業実績概要

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.7.6 -7	北海道/㈱日本製鋼所(室蘭製作所)、室蘭工業大学、江別製粉㈱	30	2 件の工場見学と室蘭工大の粉体工学関連研究施設見学、並びに技術講演 3 件
2	H30.2.26	東京/ライオン㈱	72	ライオン㈱の見学と同社からのポスター発表 技術講演 3 件

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.6.2	東京/協会東京事務所と由庵矢もり	5	幹事の異動について 本年度の実行方針の検討
2	H29.7.6-7	千葉/千葉空港内レストラン	9	第 2 回分科会本会合企画について 早期養成講座について 他
3	H29.11.20	東京/古河産機システムズ	5	第2回分科会本会合について 平成 30 年度事業計画について 他

4	H30.1.19	名古屋/名鉄グランドホテル	4	幹事の交代について 平成30年度事業計画について
5	H30.2.26	東京/ライオン(株)	13	平成30年度事業計画の具体化について

(専門講座)

放射光を用いた高度分析技術の最前線 2017.10.31 (計装測定・粉砕・集じん・微粒子ナノ分科会合同)

(粉体エンジニア早期養成講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
4	H29.10.26 -27	愛知/ツカサ工業(株)	14	粉砕の基礎、粉砕装置の特徴・粉体プロセス、粉砕プロセス解析のためのDEMシミュレーション、粉砕機による粉砕実習など

7.3 分級ふるい分け分科会

登録会員数 116 人

(吉田英人コーディネータ、秋山聡代表幹事[日清エンジニアリング(株)]、佐藤一彦副代表幹事[晃栄産業(株)])

平成29年度の事業実績概要

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.7.25	千葉/千葉協同サイロ(株)	13 (42)	(粉体ハンドリング分科会と合同) 穀物サイロ設備見学と「粉じん爆発現象の基礎と爆発防止対策」をテーマとした技術講演及び製品紹介
2	H29.10.17	広島/(株)サタケ 広島本社	18	最新鋭の光選別機および米加工設備見学と「光選別に関する技術紹介」、「固液・液液分散系の粒子分離シミュレーション」の講演

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.7.25	千葉/オークラ千葉ホテル	6	今年度分科会計画と粉体エンジニア早期養成講座について
2	H29.10.17	広島/魚民西条店	6	次年度の計画

(専門講座)

開催なし

(粉体エンジニア早期養成講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
3	H29.9.21 -22	大阪/関西金網(株)	9	分級の原理、理論と各種装置についての講義および分級機とふるい分け機の実習

7.4 乾燥分科会

登録会員数 95 人

(田門肇コーディネータ、立元雄治副コーディネータ、諏訪聡代表幹事[月島機械(株)]、飯田晃弘副代表幹事[株大川原製作所])

平成29年度の事業実績概要

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29. 6.22	三重/チヨダウーテ(株) 四日市工場	33	乾燥、焼成設備の見学講演会 ・四日市工場の概要説明、工場見学 ・「マイクロ波加熱を用いた多孔質固体の加熱・脱水に関する基礎研究」名古屋大学 窪田光宏氏 ・「新型気流乾燥機について」 ホソカワミクロン(株) 千葉智幸氏

2	H29.11.17	東京/ホテル機山館	32	新素材に関する乾燥技術をテーマとした講演会 ・「減圧流動層を用いた低温度・高速度乾燥法に関する研究紹介」 静岡大学 立元雄治氏 ・「粉体乾燥における超臨界技術の適用」 KISCO(株) 蓬田茂氏 ・「廃熱回収のための蓄熱技術」 高砂熱学工業(株) 谷野正幸氏 ・「電池材料における加熱設備」 (株)ノリタケカンパニーリミテド 大威英晃氏 ・「塗布膜乾燥のメカニズムと各種影響因子について」 藤田保健衛生大学 鏡裕行氏
---	-----------	-----------	----	---

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.6.22	三重/桑名グリーンホテル内レストラン	8	幹事人事異動と次回分科会企画 粉体エンジニア早期養成講座について
2	H29.11.17	東京/ホテル機山館内レストラン	7	幹事人事異動と次回分科会企画 粉体エンジニア早期養成講座について

(専門講座)

開催なし

(粉体エンジニア早期養成講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
8	H30.1.23 -24	静岡/(株)大川原製作所	11	乾燥技術の基礎、実習

7.5 集じん分科会

登録会員数 126 人

(金岡千嘉男コーディネータ、牧野尚夫副コーディネータ、(杉野隆代表幹事[アマノ(株)]、近藤茂雄副代表幹事[日本スピンドル製造(株)])

平成 29 年度の事業実績概要

本年度も、集じん装置の性能向上だけでなく多機能化ならびに省エネ化など、さらなる高度化に向けた活動や標準化を推進するとともに、専門講座や粉体エンジニア早期養成講座を通して、その成果の活用にも努めた。

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.5.19	兵庫/(株)神戸製鋼所 神戸発電所	46	(株)コベルコパワー神戸: 神戸発電所の見学会、火力発電・製鉄プロセスの調査。
2	H29.9.8	静岡/アマノ(株)細江事業所	62 (87)	(輸送分科会と合同) 集じん機及び清掃機の製造工場と粉粒体空気輸送テストプラントを対象にした見学会と技術講演
3	H29.12.12	広島/テラル(株)	33	最新の送風機やポンプの製造組立工場及び性能試験場の見学と技術講演(集じんに関する国際規格の現状と ISO/PWI22031 集じん機ろ布の劣化検証試験方法)
4	H30.2.20	埼玉/能美防災(株)	39	防災・消火設備の最新システムの紹介及び放水・消火実験の見学と技術講演

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.5.19	兵庫/金寶來新神戸店	19	副代表幹事の就任の承認及び他。 第 2 回分科会企画の説明
2	H29.9.8	静岡/日本海庄や 浜松南口店	18	集じん技術委員会の活動に関する説明 専門講座、早期育成講座の対応検討 第 3 回分科会企画の説明
3	H29.12.12	広島/旬彩美酒ちどり	20	次年度予算案の説明、承認 次年度分科会運営に関する検討 第 4 回分科会企画の説明

(専門講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
1	H29.10.31	東京/日本橋ライフサイエンスビルディング	31 (72)	放射光を用いた高度分析技術の最前線をテーマとした技術講演4本。集じん・粉碎・計装測定・微粒子ナノテクノロジー分科会の合同企画

(粉体エンジニア早期養成講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
6	H29.12.5 -6	静岡/アクトシティ浜松, (株)環境衛生研究所	21	集じんの基礎他、講演4本、集じん装置の性能測定他、実技講習3本

7.6 混合・成形分科会

登録会員数 87人

(鈴木道隆コーディネータ、藤正督副コーディネータ、藤井淳代表幹事〔株栗本鐵工所〕、菅原一博副代表幹事〔菅原精機株〕)
平成29年度の事業実績概要

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.9.1	京都/西村陶業株	23	セラミックス成形電磁器の工場見学会
2	H30.3.15	姫路/ヤマサ蒲鉾株 兵庫県立大・工	22	練り製品の工場ならびに粉粒体工学研究室見学と講演

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.9.1	京都/菅原精機	7	今年度の分科会企画について 粉体エンジニア早期養成講座について
2	H29.12.1	京都/菅原精機	4	今年度と来年度の分科会企画について
3	H29.3.15	じばさんびる姫路 602	8	今年度と来年度の分科会企画について

(専門講座)

開催なし

(粉体エンジニア早期養成講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
7	H29.12.14 -15	千葉/太平洋機工株	14	粉体混合ならびに混練の講義と実験 14日(第一日目)AM/混合の基礎および装置各論 PM/容器回転型および容器固定型混合機実習 15日(第二日目)AM/混練の基礎および装置各論 PM/回分式および連続式混練機実習

7.7 造粒分科会

登録会員数 382人

(村瀬和典コーディネータ、武井孝副コーディネータ、桑原敏之代表幹事〔株ダルトン〕、岩松英敏〔株奈良機械製作所〕)

平成29年度の事業実績概要

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.10.6	大阪/マイクロトラック・バル株	31	「機能性粒子創製の評価に、計測/測定は欠かせない！」をテーマに施設見学と粉体表面物性計測技術に関する講演
2	H30.3.9	東京/中央大学 後楽園キャンパス	61	「造粒技術における添加剤の役割と効果」をテーマに技術講演会

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.5.10	大阪/株ダルトン	16	次回分科会の進捗報告及び今後のスケジュール、担当の決定
2	H29.8.23	東京/中央大学	6	技術討論会の講演依頼先及び今後のスケジュールの決定
3	H29.12.8	東京/株ダルトン	15	来年度運営計画策定。技術討論会について
4	H30.3.9	東京/中央大学 後楽園キャンパス	15	技術討論会総括

(専門講座) 開催なし
 (粉体エンジニア早期養成講座) 開催なし

7.8 計装測定分科会

登録会員数 82 人

(森康維コーディネータ、後藤邦彰副コーディネータ、鷺尾一裕代表幹事[㈱島津製作所]、阿川直樹副代表幹事[㈱セイシン企業]、池田英幸副代表幹事[スペクトリス㈱])

平成 29 年度の事業実績概要

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H30.1.31	東京/同志社大学東京 オフィス	37	第 37 回計装測定講演会【粉体物性測定の新しい手法とアプリケーション】

(幹事会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.8.30	京都/㈱島津製作所三 条工場及び楽蔵うたげ	8	大阪粉工展ガイダンスセミナー打合せ/専門講座の参加協力要請他/次回分科会企画/粉体エンジニア早期養成講座報告と来年度の取り組みについて/拡大分科会運営委員会内容報告他
2	H29.10.13	大阪/鶏京 Kitchen 節	7	大阪粉工展ガイダンスセミナー反省、計装測定講演会のテーマの検討、次期粉体 E 早期養成講座担当会社検討他
3	H30. 1.31	東京/咲くら京橋ほか	8	計装測定講演会の反省、次年度取り組み、分科会連絡会報告、功労賞の件他

(専門講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
1	H29.10.31	東京/日本橋ライフサイ エンスビルディング	31 (4分科会)	APPIE、集じん、粉碎、微粒子ナノテクノロジー各分科会と共同、第 66 回粉体技術専門講座～放射光を用いた高度分析技術の最前線～

(粉体エンジニア早期養成講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
2	H29.8.22 -23	京都/㈱島津製作所 三条工場 グローバル アプリケーションセンタ ー	9	8.22 講義:増田 弘昭先生、森 康維先生 ① 計測・測定の基礎 ② 粒子径分布測定の基礎 ③ 粉体の物理的・化学的特性 ④ 粉体プロセスにおける計測 8.23 実習:島津製作所担当者 ⑤ レーザ回折式粒子径分布測定装置の実習 ⑥ 比表面積/細孔分布測定装置、乾式密度測定装置の実習

(その他)

大阪粉体工業展 2017 の併設イベントとして、2017 年 10 月 13 日(金)『粉体機器ガイダンス 計装測定』セミナーが開催され、分科会として企画立案した。具体的には、コーディネータの森先生が基調講演、各幹事会社から計測装置に関するプレゼンを行った。参加者は 80 名でメ切前に満席となった。幹事会社の製品ラインナップのマトリクス資料などを準備、作成した。

7.9 湿式プロセス分科会

登録会員数 82 人

(岩田政司コーディネータ、後藤邦彰副コーディネータ、石川敏代表幹事[関西金網㈱])

平成 29 年度の事業実績概要

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.7.6	兵庫/神戸大学	19	「湿式」「微粒子」に関係する2つの研究センターの見学と講演会

(幹事会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H30.2.1	関西金網/大阪	5	次年度の計画、副コーディネータの交代について

(専門講座)

開催なし

(粉体エンジニア早期養成講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
9	H30.2.1-2	大阪/関西金網(株)	9	①ろ過の基礎理論、②ろ過装置の特徴と使用法、③ろ材の特徴と使用法、④膜ろ過概論、⑤ろ材・分離膜の最近の動向、⑥定圧ろ過実験

7.10 輸送分科会

登録会員数 140 人

(田中敏嗣コーディネータ、武居昌宏副コーディネータ、井上照男代表幹事[ツカサ工業(株)]、岸本武志副代表幹事[三興空気装置(株)])以下5名の幹事

平成29年度の事業実績概要

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.6.2	愛知/ツカサ工業(株)	45	粉粒体機器の製造工程と展示場の見学及び製品紹介
2	H29.9.8	静岡/アマノ(株) 細江事業所	25 (87)	(集じん分科会と合同) 集じん機及び清掃機の製造工場と粉粒体空気輸送テストプラントを対象にした見学会と技術講演
3	H29.11.24	広島/(株)サタケ	25	選別加工総合センターと歴史館の見学と製品紹介
4	H30.3.14	愛知/三菱重工(株) MRJ組立工場兼ミュージアム、名古屋国際センター	33	MRJジェット機の最終組立工場兼ミュージアム見学 その後名古屋国際センターにて講演と製品紹介予定

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.6.2	名古屋/(株)椿本バルクシステム名古屋営業所	9	分科会前の打合せ 次回分科会企画について
2	H29.9.8	静岡/日本海庄や 浜松南口店	8	次回分科会企画 国際粉工展東京2018でのガイダンスについて
3	H30.1.19	名古屋/三重人	10	来年度分科会企画について
4	H30.3.14	名古屋/Bar 一八	9	来年度分科会の企画と第1回分科会具体的な打合せ

(専門講座)

平成30年度に開催予定に向けて本会合で検討に入る

(粉体エンジニア早期養成講座)

開催なし

7.11 クリーン化分科会

登録会員数 145 人

(大谷吉生コーディネータ、鍵直樹副コーディネータ、宇治勝幸代表幹事[千代田テクノエース(株)]

林敏昭副代表幹事[東洋紡(株)]、松田朋信副代表幹事[リオン(株)]

平成29年度の事業実績概要

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.7.25	つくば/産総研	21	「産業技術総合研究所の施設見学と講演会」
2	H29.10.26	千葉/(株)竹中工務店 竹中技術研究所	18 (39)	(食品粉体技術分科会と合同) 「食品製造環境・クリーンルーム」をテーマとし、研究施設の見学と関連技術の講演

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.7.25	つくば/北海道魚鮮つくば	9	次回分科会企画について 世話人体制について
2	H29.10.26	千葉/千葉ニュータウン中央 松栄館	10	次回分科会企画 代表幹事、コーディネータ交代について
3	H29.12.4	八重洲/ハゲ天	3	次回分科会企画 代表幹事交代について

(専門講座)

開催なし

(粉体エンジニア早期養成講座)

開催なし

7.12 環境エネルギー・流動化分科会

登録会員数 46 人

(幡野博之コーディネータ、成瀬一郎副コーディネータ、高田真木代表幹事[月島機械株]、
高島久継副代表幹事[株奈良機械製作所])

平成 29 年度の事業実績概要

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.4.7	三重/クリーンエネルギー津 バイオマス発電所	32	木質バイオマス発電 CFB ボイラ見学会
2	H29.7.27 ~28	秋田/ユナイテッドリニューアブルエネルギー(株)ほか	22	木質バイオマス発電施設と都市鉱山からの有価金属回収システムの見学会
3	H29.11.16	東京/中央大学 後楽園キャンパス	40	「進化する流動床焼却技術」というテーマに基づき講演 4 件

(幹事会、小委員会)

回	開催日	場所	人数	テーマ
1	H30.1.19	名古屋市中村区	9	2018 年度体制と分科会開催計画について

(専門講座)

開催なし(専門講座開催に必要な要件を満たす見込みがないため)

(粉体エンジニア早期養成講座)

開催なし(本講座開始より以前から同内容の講座を幡野コーディネータが毎年開催しているため)

7.13 晶析分科会

登録会員数 152 人

(白川善幸コーディネータ、松本真和副コーディネータ、津崎裕也代表幹事[月島機械株]、大森一成副代表幹事[味の素株])

平成 29 年度の事業実績概要

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.8.29	東京/(株)栗本鐵工所	15 (30)	(微粒子ナノテクノロジー分科会と合同) 「特殊反応場」をテーマに技術講演会
2	H29.3.1~ 3.2	徳島大学/鳴門塩業株式会社	22	晶析技術講演「晶析プロセスの課題と最近の動向」 鳴門塩業(株) 工場見学

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.5.16	東京/早稲田大学国際会議場内研究室	5	第 1 回、2 回分科会企画について 専門講座について
2	H29.6.27	東京/同志社大学東京オフィス	6	第 1 回、2 回分科会企画について 専門講座について
3	H29.11.29	東京/月島機械(株)	6	第 2 回分科会 企画について 来期事業計画 ACHEMA 参画について
4	H30.1.9	神奈川/味の素(株)	7	第 2 回分科会 企画について 来期事業計画 ACHEMA 参画について

5	H30.3.1	徳島駅前	8	平成 30 年度分科会企画について 来期事業計画 ACHEMA 参画について
---	---------	------	---	---

(専門講座)

開催なし

(粉体エンジニア早期養成講座)

開催なし

7.14 微粒子ナノテクノロジー分科会

登録会員数 243 人

(神谷秀博コーディネータ、宮原稔副コーディネータ、福井武久代表幹事[株栗本鐵工所]、中村圭太郎副代表幹事[日清製粉グループ本社]、鳥居経芳副代表幹事[スペクトリス(株)])

平成 29 年度の事業実績概要

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.8.29	東京/株栗本鐵工所	15 (30)	(晶析分科会と合同) 微粒子・ナノ材料の利用技術の発信
2	H29.11.9- 11	中国蘇州/東南大、蘇 州リサーチパーク	16	微粒子・ナノ材料関連研究開発の海外調査及びシン ポジウム
3	H30.3.15	京都/キャンパスプラザ京 都	19	中国における微粒子・ナノ材料の開発状況 (第 2 回海外(蘇州)分科会の成果報告)

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.5.29	東京/株栗本鐵工所	10	第 1 回～3 回分科会企画進捗状況について
2	H29.8.29	東京/株栗本鐵工所	9	第 1 回、2 回分科会企画について ACHEMA2018 での IPNF 開催について
3	H29.10.31	東京/日本橋墨之栄	5	第 2 回分科会進捗状況の確認と打合せ
4	H29.12.1	大阪/株栗本鐵工所	8	第 2 回分科会結果報告、第 3 回分科会、次年度海外 分科会 (ACHEMA2018, IPNF2018) の企画について

(専門講座)

放射光を用いた高度分析技術の最前線 2017.10.31 (計装測定・粉碎・集じん・微粒子ナノ分科会合同)

(粉体エンジニア早期養成講座)

開催なし

7.15 電池製造技術分科会

登録会員数 400 人

(境哲男コーディネータ、堤敦司副コーディネータ、秋元祐代表幹事[赤武エンジニアリング(株)]

中村岳幸副代表幹事[東洋ハイテック(株)]、佐藤高公副代表幹事[株セイシン企業])

平成 29 年度の事業実績概要

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.6.30	東京/東京大学生産技術研究所	134	次世代電池技術に関する講演会
2	H29.10.25 -26	広島/株日本製鋼所	90	電池の安全性向上技術に関する講演会
3	H30.2.2	大阪/千里ライフサイエンスセンター	105	電池の高性能化に関する講演会

(幹事会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.6.30	東京/東京大学 生産技術研究所	11	次回分科会企画
2	H29.10.25	広島/広島ガーデンパレス	10	次回分科会企画
3	H30.2.2	大阪/千里ライフサイエンスセンター	10	次回分科会企画

(専門講座)

開催なし

(粉体エンジニア早期養成講座)

開催なし

7.16 リサイクル技術分科会

登録会員数 280 人

(大矢仁史コーディネータ、外川健一副コーディネータ、荻田哲也代表幹事[赤武エンジニアリング(株)]、
増井芽副代表幹事[(株)アクトリー]、齊藤陽副代表幹事[(株)タナベ])

平成 29 年度の事業実績概要

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.6.6	北九州/(株)アステック 入江	34	金メダル等の再商品化事業をテーマとした講演および 見学会
2	H29.9.19	熊本/熊本県災害廃 棄物二次仮置き場	24	熊本県災害廃棄物二次仮置き場における災害廃棄 物処理・リサイクル施設の見学会および講演会
3	H30.3.7	石川/・金沢工大/ICC ・アクトリー	20	・革新複合材料研究開発センタの見学と講演会 ・新エネルギー利用施設の見学と講演会

(幹事会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.6.7	福岡/マリンテラス芦屋 ほか	7	次回分科会企画 「粉体技術」誌への掲載に関して 分科会体制について
2	H29.9.19	熊本/熊本空港ホテル エミナース	10	次回分科会企画 「粉体技術」誌への掲載に関して 分科会体制について
3	H29.12.15	名古屋国際センタ	9	次回分科会企画 来年度の活動計画
4	H30.3.7	金沢地区	9	来年度第 1 回分科会に関して

(専門講座)

開催なし

(粉体エンジニア早期養成講座)

開催なし

7.17 食品粉体技術分科会

登録会員数 196 人

(羽倉義雄コーディネータ、五月女格副コーディネータ、野村光生代表幹事[(株)株式会社日清製粉グループ本社]、
川島哲文副代表幹事[(株)竹中工務店])

平成 29 年度の事業実績概要

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.7.12	愛知/新東工業(株) 幸田事業所	27	単位操作技術「集じん」をテーマとし、施設見学と関連 技術の講演
2	H29.10.26	千葉/(株)竹中工務店 竹中技術研究所	21 (39)	(クリーン化分科会と合同) 「食品製造環境・クリーンルーム」をテーマとし、研究施 設の見学と関連技術の講演
3	H30.3.8	神奈川/味の素(株) 川崎工場	28 (58)	(粉体シミュレーション技術利用分科会と合同) 単位操作技術「混合・造粒」をテーマとし、施設見学と 関連技術の講演

(幹事会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.7.12	愛知/岡崎市	10	次回分科会企画と来年度計画について 幹事交代について
2	H29.10.26	千葉/印西市	11	次回分科会企画と来年度計画について 事務局交代について
3	H30.3.8	神奈川/川崎市	9	次回分科会企画と来年度計画について

(専門講座)

開催なし

(粉体エンジニア早期養成講座)

開催なし

7.18 粒子加工技術分科会

登録会員数 95 人

(福森義信コーディネータ、竹内洋文副コーディネータ、吉田泰三代表幹事[株徳寿工作所])

伊藤有一副代表幹事[信越化学工業(株)]、浅井直親副代表幹事[株ダルトン]

平成 29 年度の事業実績概要

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29. 6.16	静岡/アステラス製薬(株) 焼津製剤研究センター	74	見学会及び最新の研究・技術についての講演会 講演 4件
2	H29.9.8	富山/株廣貫堂 呉羽工場	69	製剤、包装工程を中心に製造ラインの見学と最新の 研究・技術についての講演会 講演 4件
3	H30.2.23	大阪/金星薬品工業(株) 和泉工場	63	見学会及び最新の研究・技術についての講演会 講演 4件

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.6.15	静岡/中島屋グランドホテル	16	幹事・世話人交代について/年間行事予定確認/第1 回見学講演会役割分担/次回見学講演会企画
2	H29.9.7	富山/富山第一ホテル	16	第2回見学講演会役割分担/次回見学講演会企画/ 製剤と粒子設計シンポジウム企画/次年度以降の活 動について
3	H29.10.25	北九州/リーガロイヤルホ テル小倉	16	製剤と粒子設計シンポジウム/第3回見学講演会企画 /次年度の見学講演会企画/分科会体制案について
4	H30.2.22	泉大津/ホテルきららリブ ート関空	16	分科会体制の確定/次年度の見学講演会の確定/次 年度の活動案

(専門講座)

開催なし

(粉体エンジニア早期養成講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
5	H29.11.21 -22	(株ダルトン 大阪イノベーションプ ラザ (東大阪市)	9	粒子加工技術の原理の理解、実務に関する 技術の修得。造粒・コーティング・打錠の 加工技術と評価を実習。

(共催)

	日程	場所	人数	テーマ
共催	H29.10.26-27	北九州市/リーガロイヤルホ テル小倉	367	第 34 回製剤と粒子設計シンポジウム 主催:粉体工学会 製剤と粒子設計部会
共催	H29.11.24	岐阜市/じゅうろくプラザ	113	第 10 回標処方研究フォーラム 主催:粉体工学会 製剤と粒子設計部会
他	H29.10.13	インテックス大阪 国際会議ホール	170	粉体工業展大阪 2017 で「粉体機器ガイド ンス」固形製剤プロセスに用いられる粒子加 工装置について解説

7.19 粉体シミュレーション技術利用分科会

登録会員数 176 人

(酒井幹夫コーディネータ、石神徹副コーディネータ、角家強志代表幹事[株構造計画研究所]、

小澤和三副代表幹事[日清エンジニアリング(株)])

平成 29 年度の事業実績概要

実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

(分科会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29. 10.11	大阪/インテックス 大阪 センタービ	99	(大阪粉体工業展にて開催) 粉体シミュレーション基調講演

		ル 2 階		出展者プレゼンテーション
2	H29.12.14	東京/東京大学駒場キャンパス生産技術研究所コンベンションホール	55	(第1回粉体シミュレーション技術利用シンポジウムと併設) 粉体シミュレーション基調講演 火力発電分野における粉体シミュレーションの活用 Japan-Australia on Advanced Modeling & Simulation for Industrial Powder System 粉体シミュレーション関連の製品紹介
3	H30.3.8	味の素株式会社(川崎)	30 (58)	(食品粉体技術分科会との合同) 微小粒子添加による粒子流動性向上 講演 最新粉体シミュレーション 講演 工場見学(味の素食品研究所)

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	テーマ
1	H29.5.24	東京/協会東京事務所 会議室 6階	13	幹事会キックオフ(顔合わせ)と今後の活動について
2	H29.7.31	東京/協会東京事務所 会議室 5階	10	第1回分科会の企画と第2回以降の方針
3	H29.10.11	大阪/インテックス大阪 センタービル 2階	10	次回分科会企画 分科会体制について
4	H29.12.14	東京/東京大学	12	次回以降の分科会企画 ホームページ作成、新幹事紹介
5	H30.3.8	川崎/味の素	18	2018年度事業計画

(専門講座)

開催なし

(粉体エンジニア早期養成講座)

開催なし

8. 粉体工業技術センター（山田幸良センター長、豊見昭副センター長）

8.1 教育部門（牧野尚夫マネジャー、大川原正明・松坂修二各副マネジャー）

平成 29 年度は例年同様、粉体入門セミナーや粉体エンジニア早期養成講座等の様々な講座を下表のように開催し、ほぼ期待通りの参加者を集めた。一方、専門講座については 1 回しか開催できなかった。

部門会議は、中期運営計画に基づき、教育部門の活動内容の確認、入門セミナーの講義内容および講師の見直し、早期養成講座や専門講座の実施状況の確認などをテーマに 12 月に開催した。このうち、入門セミナーについては、次年度の講義内容と講師を決定し、早期養成講座、専門講座については、次年度計画の概要をチェックした。なお、粉体エンジニア早期養成講座については、2 月に開催予定の実行小委員会にて、次年度以降の講義内容の詳細を検討する予定であるが、平成 28 年度に大きな赤字を出していた科目についても、本年度の計画見直しにより、大幅な改善が見込まれつつある。

1.平成 29 年度の事業実績概要

H29 年度 開催講座

講座名とタイトル	開催日	開催場所	参加者数	
粉体入門セミナー(I)(第 50 回)	H29.6.13~14	東京/UDX GALLERY NEXT-2	59	
粉体入門セミナー(II)(第 51 回)	H29.6.29~30	東京/UDX GALLERY NEXT-2	52	
粉体入門セミナー(III)(第 52 回)	H29.7.20~21	東京/UDX GALLERY NEXT-2	59	
粉体エンジニア早期養成講座	第 1 回 粉体工学基礎論	H29.7.6~7	大阪/塩野義製薬(株) 摂津工場	13
	第 2 回 計測・測定	H29.8.22~23	京都市/(株)島津製作所 三条工場 グローバルアプリケーションセンター	9
	第 3 回 分級	H29.9.21~22	大阪市/関西金網(株) 本社	9
	第 4 回 粉砕	H29.10.26~27	愛知/ツカサ工業(株)	13
	第 5 回 粒子加工	H29.11.21~22	大阪/(株)ダルトン 大阪イノベーションプラザ	9
	第 6 回 集じん	H29.12.5~6	浜松市/アクトシティ浜松・(株)環境衛生研究所	21
	第 7 回 混合・混練	H29.12.14~15	千葉/大平洋機工(株)	14
	第 8 回 乾燥	H30.1.23~24	静岡/(株)大川原製作所	12
	第 9 回 ろ過	H30.2.1~2	大阪市/関西金網(株) 本社	9
第 66 回粉体技術専門講座 「放射光を用いた高度分析技術の最前線」	H29.10.31	東京/日本橋ライフサイエンスビルディング	31	
粉じん爆発・火災安全研修[初級・基礎編]	H29.9.4~5	東京/労働安全衛生総合研究所	70	

2.実施した会合、会議について

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.11.27	京都/京都本部会議室	12	・H29 年度事業計画 進捗状況の確認 ・現在各種セミナーや講座が抱えている課題を検討 ・H30 年度事業計画案について ・H30 年度の委員体制と予算について

(小委員会)

回	月・日	場所	人数	議題
1	H30.2.21	京都/京都本部会議室	16	H30 年度粉体エンジニア早期養成講座開催にあたっての課題等を検討。

8.2 製造事業部門（豊見昭マネジャー）

1.平成 29 年度の事業実績概要

1-1 売上高・支出の推移

(単位:千円)

	28 年度実績	29 年度予算	29 年度実績
売上(千円)	95,843	95,000	91,010
売上前年度比(%)	104.4	99.1	95.0
事業費(支出、千円)	68,099	68,265	63,644
収支差(千円)	27,744	26,735	27,366

1-2 平成 29 年度の重要項目の状況

- 1)実績:売上 91,010 千円(予算比 95.8%、前年度比 95.0%)、利益(収支差)27.366 千円(予算比 102%、前年度比 98.6%)であった。
 売上げについては国内、特に主要顧客である自動車、電機・電子関連向け売上げが少しずつ減少している。その中でも、最も売上げが大きい JIS 試験用粉体(8 種)の売上げが減少し、その分、ISO 規格の AC ダストの売上げが増加してきている。海外向けは、アメリカは順調だが、韓国、中国の伸びが無く、インドは本年度今のところ零である。海外売上比率は、今年度 12.8%と昨年度の 13.2%より少し海外売上比率が減少した。
- 2)品種別売上状況:JIS 試験用粉体 1 だけで全体の売上比率 70 数%、そのうち関東ロームだけで 50%だが年々減少傾向、けい砂と関東ロームと合わせて 65%、又 AC ダストを入れると 80%となる。JIS 試験用粉体 2 ガラスビーズ、白色溶融アルミナ、APPIE 検定用粒子、SAP 試験用粉体、電気・電子試験用砂じんとも各々1~3%の売上比率である。この粉体の底上げが課題である。
- 3)SDS(安全データシート)の改訂:酸化チタン、カーボンブラックの危険性表示ラベルシンボルマークを削除した。
- 4)標準粉体委員会:平成 29 年 7 月 26 日開催
 議題・MBP 粒子の認証標準物質(CRM)登録作業状況
 - ・JIS 試験用粉体 1 のラウンドロビン試験の準備状況と今後の作業の検討
 - ・JIS Z 8901:2006「試験用粉体及び試験用粒子」改訂の検討
- 5)ホソカワミクロンとの政策会議開催:平成 29 年 8 月 7 日開催、場所:HMC 会議室
 議題・標準粉体送料(ヤマト運輸)改訂の件
 - ・関東ローム原料調達に伴う件
 - ・製造マニュアルの件
- 6)粉体工業展 2017 大阪:国際粉工展東京 2016 に引き続き標準粉体サンプルを展示した。
- 7)標準粉体 1-12 種カーボンブラック品質確認書改訂の件:製造メーカーの旭カーボンより、メーカー名、品名、ロットNo.の使用禁止依頼があり、品質確認書の改訂を委託会社のホソカワミクロンと協議の上行う。それに伴いガラスビーズ、白色溶融アルミナも同じように改訂を行う。
- 8)NET 販売の検討:
 ホソカワミクロン化粧品及びホソカワミクロンに NET 販売についてアドバイスを受け、検討の結果、富士通マーケティング、大塚商会に見積依頼を行ってきたが、インシヤルコストが掛りすぎてそれに見合う効果(売り上げ増、大幅な費用削減)が期待できそうにないということで、NET 販売での管理システムの導入は当面行わない。

8.3 産学技術交流推進部門 (後藤邦彰マネジャー、菅原一博副マネジャー)

1 平成 29 年度の事業実績概要

- 1) 技術相談 利用者増をめざし チラシを配布。
 H29 年度 申込み数 27 件(うち技術相談に発展 11 件 うち 技術指導へ移行 2 件)
- 2) APPIE 産学官連携フェア 2017 の開催
 日時:2017 年 10 月 12 日 9:25~15:00
 会場:大阪/インテックス大阪 センタービル 国際会議ホール及び会議室
 参加者数:136 名(シーズ 40 件 ニーズ 96 名)
- 3) テクノカフェ

講座名	開催日	開催場所	人数
第 9 回テクノカフェ	H30.3.16	京都/ホテルカンラ京都	13

2.実施した会合、会議について

回	月・日	場所	人数	議題
1	H29.6.27	京都/協会本部 会議室	6	1. 前回議事録の確認 2. H29 年度事業計画について(委員長・部門連絡会議の報告) 3. 第 8 回テクノカフェについて 4. 第 2 回ベストシーズ講演会&第 7 回テクノカフェについて反省 5. APPIE 産学官連携フェア 2017 について 6. 事務局からの報告 7. 次回会議の予定
2	H29.9.15	京都/協会本部 会議室	9	1.前回議事録の確認 2.APPIE 産学官連携フェア 2017 について 3.第 9 回テクノカフェについて 4.2018 年度 事業計画について(資料 14)

				5.産学技術交流推進部門委員の追加について 6.次回会議の予定
3	H29.12.8	京都タワーホテル	6	大阪粉体工業展委員会との合同反省会
4	H30.3.16	京都/ホテルカンラ京都	7	テクノカフェに合わせて開催 1.APPIE 産学官連携フェア 2017 の終了後のアンケート結果確認 2.第9回テクノカフェ当日のスケジュール確認 3.第10回テクノカフェについて検討 4.第3回ベストシーズ講演会について

9. 技術情報交流懇話会

9.1 火曜会(東京)

回	日程	当番会社	出席者数	場所	講演題目	講師
278	4.11	日本化学工業(株)	118	東京/東京 ガーデンパレス	「リチウムイオン電池 現在・過去・未来」	旭化成(株) 顧問 工学博士 吉野彰氏
279	7.11	(株)奈良機械製作所	93	同上	「パラスポーツと社会」	(一社)日本車椅子バスケットボール連盟 三宅克己氏
280	10.3	アイシン産業(株)	111	同上	「品質管理は大丈夫? -品質管理の歴史から学ぶ-」	仲野改善研究所 仲野彰氏
281	H30.1.16	マイクロトラック・ベル(株)	123	同上	「ファインバブルテクノロジーの発展と展望」	慶応義塾大学理工学部 教授 寺坂宏一氏

9.2 水曜会(名古屋)

回	日程	当番会社	出席者数	場所	講演題目	講師
56	6.28	晃栄産業(株)	42	名古屋/名 鉄ニューグランドホテル	「世界の医療現場からみた日本の医療」	フリーランス顎顔面口腔外科医 岩田雅裕氏
57	10.18	中央化工機(株)	50	同上	「すしの変遷とそれを支えた半田のお酢」	株式会社 Mizkan MD 本部 商品企画部 商品企画 第1課 赤野裕文氏
58	H30.2.14	杉山重工(株)	52	同上	「あいち産業科学技術総合センターにおける材料分析」	あいち産業科学技術総合センター 共同研究支援部 計測分析室 主任研究員 中尾俊章氏 主任 山田圭二氏

9.3 木曜会(大阪)

回	日程	当番会社	出席者数	場所	講演題目	講師
208	5.11	アマノ(株)	79	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪	「社員トラブル事例から学ぶ労務リスクと回避策」	特定社会保険労務士 杉本一裕氏
209	9.7	(株)西村機械製作所	71	同上	「カニかまぼこの製造機械で世界シェア70%」	(株)ヤナギヤ 代表取締役社長 柳屋芳雄氏
210	12.7	アイシン産業(株)	70	同上	「社会に求められるリーダーシップとは」	豊田安全衛生マネジメント(株) 顧問 平井俊洋氏
211	H30.3.1	三興空気装置(株)	65	同上	「働き方改革がもたらすもの」	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株) 朝生万里子氏

9.4 金曜会(福岡)

回	日程	当番会社	出席者数	場所	講演題目	講師
55	7.21	(株)田中三次郎商店	29	福岡/博多エクスセルホテル東急	「地域で守る福岡の環境と文化～室見川の取り組み」	福岡大学 工学部 社会デザイン工学科 助教 伊豫岡宏樹氏
56	10.27	グローバルマテリアルズエンジニアリング(株)	31	同上	「技術者の引抜き/転職に伴う技術/情報流出問題の実情とその対応のポイント」	九州大学法科大学院 教授 増永弘氏
57	H30.3.9	(株)マツシマメジャテック	30	同上	「夢のスペースプレーンに向けた挑戦」	九州工業大学 工学研究院 助教 藤原貴弘氏

10. 共催・協賛及び後援行事 (H29.4.1～H30.3.31)

10.1 共催 3件

行事名	開催日	開催場所	主催団体
第52回技術討論会	H29.6.20～6.21	横浜/横浜国立大学	粉体工学会
第34回エアロゾル科学・技術研究討論会	H29.8.3～8.4	東京/芝浦工業大学	日本エアロゾル学会
第55回粉体に関する討論会	H29.11.13～11.15	宮城/ホテルグランドパレス塩釜	粉体工学会

10.2 協賛 30件

行事名	開催日	開催場所	主催団体
TECHNO-FRONTIER 2017	H29.4.19～4.21	千葉/幕張メッセ	(一社)日本能率協会
第34回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会	H29.4.25～4.26	東京/早稲田大学	(公社)日本空気清浄協会
界面コロイドラーニング-第33回現代コロイド・界面化学基礎講座-色材セミナー	H29.5.18～5.19	東京/化学会館 大阪/ドーンセンター	(公社)日本化学会コロイド界面化学部会 (一社)色材協会関西支部
	H29.6.15～6.16		
日本エネルギー学会[リサイクル・バイオマス・ガス化]三部会(RGB)シンポジウム	H29.6.12	東京/全国家電会館	(一社)日本エネルギー学会
FOOMA JAPAN 2017	H29.6.13～6.16	東京/東京ビッグサイト	(一社)日本食品機械工業会
先端技術を支える単位操作シリーズ	H29.6.14	大阪/大阪科学技術センター	(公社)化学工学会関西支部
2017 農業食料工学会シンポジウムフードテクノロジー(フーテック)フォーラム	H29.6.16	東京/東京ビッグサイト	農業食料工学会
革新型蓄電池「エネルギー有効利用の基盤技術～蓄電池技術の最新動向」	H29.6.20	大阪/大阪科学技術センター	(公社)化学工学会関西支部
第1回講演会	H29.7.7	東京/日本ペイントホールディングス(株)	日本塗装技術協会

色材分散講座	H29.7.13	大阪/大阪科学技術センター	(一社)色材協会 関西支部
第15回技術講演会	H29.7.19 ～7.20	東京/品川インターシティホール	新製剤技術とエンジニアリングを考える会
平成29年度アンコール大阪講演会	H29.7.28	大阪/エル・おおさか	日本塗装技術協会
マルチフィジックスシミュレーションセミナー	H29.8.22	東京/(株)構造計画研究所	(株)構造計画研究所
粒子・流体プロセス技術コース2017	H29.8.24 ～8.25	東京/中央大学後楽園キャンパス	(公社)化学工学会粒子・流体プロセス部会流動層分科会
第59回顔料入門講座	H29.8.31 ～9.1 9.7～9.8	千葉/千葉工業大学	(一社)色材協会
JASIS2017	H29.9.6 ～9.8	千葉/幕張メッセ国際展示場	(一社)日本分析機器工業会 (一社)日本科学機器協会
第8回塗装入門講座	H29.9.7 ～9.8	東京/日本ペイントホールディングス(株)	日本塗装技術協会
平成29年度産総研 エネルギー・環境シンポジウム	H29.9.8	東京/機械振興会館ホール	(国研)産業技術総合研究所
IFPEX2017	H29.9.13 ～9.15	東京/東京ビッグサイト	(一社)日本フルードパワー工業会
第9回ホットな話題の講演会	H29.10.2	東京/東京理科大学森戸記念館	(公社)化学工学会関東支部
JAPAN PACK2017	H29.10.3 ～10.6	東京/東京ビッグサイト	(一社)日本包装機会工業会
第51回食品包装シンポジウム	H30.10.17	東京/北とぴあ	(一社)日本食品包装協会
INCHEM TOKYO 2017	H29.11.20 ～11.22	東京/東京ビッグサイト	(公社)化学工学会 (一社)日本能率協会
粉体の機械的単位操作に関する参加型講演会	H29.11.28 ～11.29	京都/同志社大学室町キャンパス他	粉体工学会
2017年度CES21 エクスカーション	H29.12.4	兵庫/(株)神鋼環境ソリューション	(公社)化学工学会 関西支部
色材講演会	H29.12.13	大阪/ドーンセンター	(一社)色材協会 関西支部
色材マテリアル講座	H30.2.7	大阪/大阪産業創造館	(一社)色材協会 関西支部
GMPセミナー「医薬品製造に関わるGMPの最新動向;講演会&見学会」	H30.2.9 ～2.10	大阪/大阪科学技術センター	(公社)化学工学会 関西支部
平成29年度第3回講演会	H30.2.16	東京/日本ペイントホールディングス(株)	日本塗装技術協会
第27回顔料分散講座	H30.2.19	東京/東京塗料会館	(一社)色材協会

10.3 後援 1件

行事名	開催日	開催場所	主催団体
平成29年度産総研 エネルギー・環境シンポジウム	H29.9.8	東京/機械振興会館ホール	(国研)産業技術総合研究所

11. 刊行物

11.1 「粉体技術」

編集 (一社)日本粉体工業技術協会 「粉体技術」編集委員会
発行 (一社)日本粉体工業技術協会
月刊誌 (1,500円・税別) (A4版 約90ページ 約1,500部/月)

11.2 事業案内 (和文 2017年度版)

編集 (一社)日本粉体工業技術協会 総務委員会
発行 平成29年5月 (A4版/11ページ/700部)

11.3 第53回粉体入門セミナーⅠ テキスト

主催 (一社)日本粉体工業技術協会
共催 粉体工学会(企画)
協賛 (公社)化学工学会
発行 平成29年6月13日 (A4版/138ページ/70部)

11.4 第54回粉体入門セミナーⅡ テキスト

主催 (一社)日本粉体工業技術協会
共催 粉体工学会(企画)
協賛 公益財団法人 化学工学会
発行 平成29年6月29日 (A4版/228ページ/65部)

11.5 第55回粉体入門セミナーⅢ テキスト

主催 (一社)日本粉体工業技術協会
共催 粉体工学会(企画)
協賛 公益財団法人 化学工学会
発行 平成29年7月20日 (A4版/195ページ/71部)

11.6 第66回粉体技術専門講座 テキスト

主催 (一社)日本粉体工業技術協会
共催 (一社)光科学イノベーションセンター
後援 粉体工学会
企画 集じん分科会、粉砕分科会、計測測定分科会、微粒子ナノテクノロジー分科会
発行 平成29年11月12日 (A4版/33ページ/112部)

11.7 粉体エンジニア早期養成講座第1回[粉体工学基礎論]

主催 (一社)日本粉体工業技術協会
協賛 (公社)化学工学会
発行 平成29年7月22日 (A4版/90ページ/26部)

11.8 粉体エンジニア早期養成講座第2回[計測・測定]

主催 (一社)日本粉体工業技術協会
協賛 (公社)化学工学会
発行 平成29年8月22日 (A4版/103ページ/17部)

11.9 粉体エンジニア早期養成講座第3回[分級]

主催 (一社)日本粉体工業技術協会
協賛 (公社)化学工学会
発行 平成29年9月21日 (A4版/84ページ/17部)

11.10 粉体エンジニア早期養成講座第4回[粉砕]

主催 (一社)日本粉体工業技術協会
協賛 (公社)化学工学会
発行 平成29年10月26日 (A4版/93ページ/26部)

11.11 粉体エンジニア早期養成講座第5回[粒子加工]

主催 (一社)日本粉体工業技術協会
協賛 (公社)化学工学会
発行 平成29年11月12日 (A4版/78ページ/17部)

- 11.12 粉体エンジニア早期養成講座第 6 回[集じん]
 主催 (一社)日本粉体工業技術協会
 協賛 (公社)化学工学会
 発行 平成 29 年 12 月 5 日(A4 版/80 ページ/22 部)
- 11.13 粉体エンジニア早期養成講座第 7 回[混合・混練]
 主催 (一社)日本粉体工業技術協会
 協賛 (公社)化学工学会
 発行 平成 29 年 12 月 14 日(A4 版/129 ページ/23 部)
- 11.14 粉体エンジニア早期養成講座第 8 回[乾燥]
 主催 (一社)日本粉体工業技術協会
 協賛 (公社)化学工学会
 発行 平成 30 年 1 月 23 日(A4 版/103 ページ/20 部)
- 11.15 粉体エンジニア早期養成講座第 9 回[ろ過]
 主催 (一社)日本粉体工業技術協会
 協賛 (公社)化学工学会
 発行 平成 30 年 2 月 1 日(A4 版/171 ページ/21 部)
- 11.16 APPIE 産学官連携フェア 2015 シーズ集
 編集/発行所: (一社)日本粉体工業技術協会 APPIE 産学官連携フェア実行委員会
 発行:平成 29 年 10 月 12 日(A4 版/58 ページ/200 部)
- 11.17 粉じん爆発・火災安全研修【初級】 ppt 資料
 主催 (一社)日本粉体工業技術協会/(独)労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所
 企画 (一社)日本粉体工業技術協会 粉じん爆発委員会
 発行 平成 29 年 9 月 4 日(A4 版/140 ページ/95 部)
- 11.18 APPIE annual Report 2018
 編集 (一社)日本粉体工業技術協会 海外交流委員会
 発行 平成 29 年 6 月 1 日(A4 版/ 9 ページ/500 部)
- 11.19 第 7 回海外情報セミナー
 主催 (一社)日本粉体工業技術協会
 企画 海外交流委員会
 発行 平成 29 年 12 月 13 日(A4 版/63 ページ/60 部)
- 11.20 第 7 回海外情報セミナー ppt 資料
 主催 (一社)日本粉体工業技術協会
 企画 海外交流委員会
 発行 平成 29 年 12 月 13 日(A4 版/63 ページ/60 部)
- 11.21 粉体用語ポケットブック
 編者 (一社)日本粉体工業技術協会
 発行所 日刊工業新聞社
 発行 平成 29 年 9 月 26 日(新書判/228 ページ/初版 2,000 部(協会は 1,300 部割当))